

<b>科目名</b>	哲学的人間学特論 I	<b>対象 単位数 必修</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	石堂 常世		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	<p>哲学的人間学（独 Philosophische Anthropologie、英 Philosophical anthropology、仏 anthropologie philosophique）は、ドイツの哲学者、マックス・シェーラーによって提唱され、特に1970年代まで関心が高かった哲学的刷新運動であった。現象としての存在を重んずるそのスタンスは、人間ならではの卓越性（アレテー）とみなされた「認識」と「倫理」の解明に挑んだギリシャ哲学からの普遍哲学の系譜（古典哲学）に対抗する人間観に立ち、同時にまた英米のアングロサクソン系哲学にも対峙した。さらに、シェーラーは、同時代に影響力をもったニーチェからも多くを学び取ることに「価値の転倒」論を展開してその人間観からも脱皮した。</p> <p>本授業は、シェーラーの哲学を研究素材として、家政学の哲学的基盤を問うという目標に立ち、細分化し個別科学に分派してしまった現代の生活科学としての家政学にひとつの警告を放ちながら、家政学に対して、あえて今の時代に求められる総合学としての意義を探るものである。それはまた、ヒトの生息を支える衣・食・住、そして子育て・教育、消費生活の諸領域に関わり合いながら、持続可能な生活原理を考究することである。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>【履修カルテの評価項目：自己評価項目】</p> <p>①マックス・シェーラーの学説を、彼の前後の哲学者の思想の分析を加えながら掘り下げて、哲学的人間学のねらいを理解し、それはどのような意図から構築されようとしたかを認識できたか。</p> <p>②分離され細分化していく個別科学の特質を把握し、その傾向が人間性や人間生活の営み（家政）に与える問題点につなげられるようになったか。</p> <p>③家政学は究極的に「人間とは何か」という根源的な問いに視座を移していかなるをえないが、そのようにして、哲学的人間学が家政学の在り方に役立つかどうかの分岐点を探ることができたか。</p>		
<b>受講資格</b>	・必修 大学院 人間生活学研究科 修士課程専攻 1年 2単位 必修 原則1年生だが2年生も可 必修科目	<b>成績評価 方法</b>	授業でひとくぎりついたときに小レポートを課す。数回にわたるそれらレポートの総合点と、出席状況、授業での質疑応答の積極性で、最終評価をする。満点は100点。レポートについては、提出日の授業時に各自に読んでもらい、内容構成、まとめ方、自分自身の探求の足跡などを皆の論議の対象として、アクティブに研究意欲を向上させる。
<b>教科書</b>	<p>ある時期に至ったならば、『宇宙における人間の位置（地位と邦訳する訳者もある）』（シェーラー著作集、第13巻）の教節を使用する。一応、コピーにて配布するが、図書館で本書を参照のこと。</p> <p>しかし、毎回の授業では、その日の授業の中身を石堂個人が執筆したレジュメで行う。このレジュメが、実質的に教科書代わりとなる。各自は、ファイル化して綴じ、毎回授業に持参すること。</p>		
<b>参考書</b>	<p>授業中、多くの哲学者、思想家の著作・資料を、抜き刷りも含めて紹介する。</p> <p>図書館、インターネットで、確認のこと。自分で入手するならばさらに望ましい。</p> <p>第1の参考書は、『マックス・シェーラー著作集』全14巻、白水社、彼のすべての論稿が収められており、解説も巻毎に書かれていて役に立つ。</p> <p>第2の参考書として、ここでは概説として以下を掲げておく。</p> <p>畠中和生『マックス・シェーラーの哲学的人間学』</p> <p>粟谷浩一『哲学的人間学の系譜』</p> <p>デーケン『人間性の価値を求めて』</p> <p>ボルノウ、プレスナー、藤田健治訳『現代の哲学的人間学』2002、白水社</p>		
<b>学生への要望</b>	<p>院生への要望</p> <p>本授業は、シェーラーの哲学を研究素材として、家政学の哲学的基盤を問うという目標に立ち、細分化し個別科学に分派してしまった現代の学問一般、とくに生活科学として枝状に専門性を伸ばしている家政学にひとつの警告を放ちつつ、家政学に対して、豊かな人間性とは何か、家庭ならではの幸福とは何かという問題意識を設定しつつ、これからの時代に求められる総合学的人間学の意義を探るものである。それはまた、ヒトの生息を支える衣・食・住、そして子育て・教育、消費生活の諸領域に関わり合いながら、持続可能なヒューマンな生活原理を考究することでもある。</p> <p>西洋哲学史を本格的に学習する専攻ではない家政学の生徒にとって、哲学的人間学を学ぶことには一種の疎遠さと難解さを感じることであろう。しかしここで、家政哲学を支えるであろうひとつの大きな根源的学びをしていただきたい。</p> <p>なじみの薄い哲学用語や哲学者が頻繁に出てくるが、事典、コンピューター等でこまめに調べ、人間が息し憩う家庭というものの管理・統括の哲学を未来に向けて追究し、人間生活を分断しがちな現代という社会の問題点を克服していける学問的エッセンスに触れてほしい。</p> <p>授業については、決して無断で欠席しないようにし、出された課題には資料、文献にあたって自分なりにまとめていくことが必要である。</p>		
<b>オフィスタイム</b>	<p>前期は、月曜の2時限、水曜、木曜でも会議等がない限り受け入れるので、メールで必ず確認のアポをとること。ishidoh@koriyama-kgc.ac.jp</p> <p>場所は、創学館5階、中央向かって左の副学長室を原則とする。人数によっては場所を変える。</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	・本特論の構成と受講者の基礎知識の確認
2	基礎論：哲学史と哲学的人間学の関係（その1）	・ギリシャ哲学の特徴を把握しよう。 ・ギリシャ哲学が人間に求めていたもの：本質の追究 認識論と倫理学のめざえ
3	基礎論：哲学史と哲学的人間学の関係（その2）	・神学的人間観からの脱皮：ルネッサンスの人間像 ダンテの『神曲』13～14世紀 モンテーニュ『随想録』16世紀初期にみる人間像
4	基礎論：近代哲学の成立と影響（その3）	・17世紀から19世紀前半までの時代変化 人間の「主体」の発見とその能力の基盤の追究 デカルト『方法序説』にみる認識基盤の転向 カント哲学の人間観一認識の基盤と倫理の基盤の解釈 現象界と智性界の識別と統合の輪廻

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
5	19世紀後半の哲学的鼓動 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現象学的人間探究の開始</li> <li>・科学の発達、とくに心理学の科学化と哲学への影響</li> <li>・実証哲学の発達と細分化される人間像</li> <li>・ニーチェの哲学</li> <li>・「ルサンチマン」の重視、伝統的形式主義への背離</li> <li>・ハイデッガー、ヤスバースの「実存的」人間像</li> <li>・支えなくさまよう人間像の展開</li> </ul>
6	19世紀後半～20世紀初期の 哲学的鼓動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーチェ、ハイデッガーの人間像がマックス・シェーラーに与えた衝撃と影響</li> </ul>
7	シェーラーにおける総合的 人間像をその階層性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物的現象・動物的现象・社会的存在・精神的存在</li> <li>『宇宙における人間の地位』を中心にひもとく</li> </ul>
8	シェーラーにおける人間的 超脱	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「否」といえる存在と</li> <li>・否定できない「聖」の次元について</li> </ul>
9	シェーラーにみる「価値の 転倒」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーチェの思想への噛み合い</li> <li>・「ルサンチマン」の人間における意味合い</li> <li>・理性的人間像の限界と「あえて人間であること」</li> </ul>
10	シェーラーが恩師オイケン から学んだもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神の優位性についての理解とその現代的展開</li> <li>・アリストテレスやパスカルの読み直し</li> </ul>
11	時代批判からくみ取る シェーラーの価値観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業・商業界にはびこってきた「有用なもの」への従属と渴望</li> <li>・資本主義的評価基準とみられた算定能力・計量的能力による実利性追求</li> <li>・ギリシャ以来の価値としての美德、節約・謙虚・高貴さ・正義・克己等の行方</li> </ul>
12	シェーラーにおける価値の 転倒(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1論文「徳の復権」について</li> </ul>
13	シェーラーにおける価値の 転倒(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2論文「道徳の構造におけるルサンチマン」の再考</li> </ul>
14	シェーラーにおける価値の 転倒(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3論文「悲劇的なものの現象に寄せて」(ニーチェ)からえぐり出したもの</li> <li>・人間における原始的、本能的な部分すなわち反合理的な面についての共感</li> <li>・陶酔的、劇場的興奮という現代社会の特質</li> <li>・シェーラーにおける「実質的価値倫理学」への歩み</li> </ul>
15	総括：哲学的人間論の意味 と構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4論文『人間の理念に寄せて』を読み直して考える。</li> <li>・「人間とは何であるか」の問いを改めて自らに突きつける。</li> <li>・神を破壊し神をめざすにせよ、生命力溢れる「超人」をめざすにせよ、</li> <li>・シェーラーが否定できなかった「敬虔な人間像」への共感と敬意</li> <li>・動物の場合における、動物 対 環境 還流的閉鎖性</li> <li>・人間の場合における 人間 対 世界 超現実世界と理念化の世界</li> </ul> <p>最後に、家政学における哲学的人間学の活用について</p>

<b>科目名</b>	教育学的人間学特論	<b>対象 単位数 必修</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	石堂 常世		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	<p>本授業は、前期に設定されている「哲学的人間学特論」の履修を前提として進めていく。「哲学的人間学特論」では、その創始者ともいえるマックス・シェーラーの現象学的人間学の基礎にある「人間性」の見方や、シェーラーの人間学に影響を与えた同時代（19世紀末～20世紀初期）の哲学者たちとの比較的検討から浮かび上がってくるシェーラー人間学の独自性を論じた。</p> <p>「教育学的人間学特論」は、この考察を踏まえ、人間形成の原理に応用した教育哲学を学ぶものである。それは、シェーラー亡き後の20世紀後半になって「実存主義的教育哲学」を打ち出したオットー・F・ボルノーの人間学や教育観を学ぶことになる。ボルノーは、現象学に立つ実存主義が教育哲学に役立つことがないというそれまでの教育界の見方をくつがえし、「出会い」「覚醒」といった概念を適することによって1方において、ヘルバルト以来の教授学中心の系統的教育学や、他方において20世紀前半に広まったジョン・デューイの経験主義的教育哲学（プラグマティズム）に不十分性を見出し、実存哲学と教育学を結合させるという業績を残した。本講義では、第1部として、この教育哲学思想の系譜を明らかにすることから始め、第2部として、ボルノーの教育哲学の具体的理解に入り、合わせて実践教育学的視点から、家庭教育や学校教育での応用理論をアクティブ・ラーニング的手法を用いて総合的理解に至らしめたい。</p> <p>第1部で、教育学の今日的発展を人間学的にみた問題を取り上げる。それらは、人間や人間生活の分化、多極化、数量化という合理性・功利性追求の方向と問題点であり、教育学でいえば、「教育科学化」の方向であるが、本論では、数人の教育哲学者の見解を使いながら、科学化・数量化が人間学にもたらした諸課題を検討する。</p> <p>第2部では、教育学的二律背反を論究する。これまで学部で学んだであろう多くの古典思想を縦横に用いながら、知識や行動を教えることと内面からの成長など、「教育学的二律背反」の問題を扱いつつ、人間の成長というものの複層性とその意味に接近していく。教育という営みは人間に特有のものであり、他の動物にはみられない。他の動物において、子どもに母親が示す愛情表現は本能から為される行為であり、ほどなく親は子どもをひとり立ちさせるべく去っていく。しかし、人間の「教育」は、ここから始まるのである。その意味で、教育とは「人為」なのであり、その人為を「自然にしたがう」という原理ながら「あるべき人為」にもっていくとすると、教育の二律背反の意味がある。すなわち、教育は、自然に即して行われるべきなのであるが、やがて自然を越えて社会、文化と一体化しなければならない。この教育学的二律背反の原理について考察を深め、人間性に迫っていく。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>【達成度目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 哲学的人間学とボルノーの教育哲学の接点を理解できたか。</li> <li>2 ジョン・デューイの経験主義的教育哲学（プラグマティズム）を、ボルノーが危惧した「教育の科学化」の観点から見つめ直すことができたか。</li> <li>3 「出会い」「覚醒」「限界状況」などは、ボルノーによって実存哲学から救い上げられた人間成長的要因である。これらの教育的意味を理解できたか。</li> <li>4 家庭生活での子育て、学校教育での児童生徒の指導に、ボルノーの教育哲学の主張を噛み合わせてみる力量をたくわえることができたか。</li> </ol>		
<b>受講資格</b>	大学院 人間生活学研究科 修士課程専攻 1年 2単位 必修	<b>成績評価 方法</b>	授業の過程でレポート課題を計2回程度出し、その内容、記述の仕方について皆で討論し、教育と人間のテーマについて互いに思考力を高めていくが、授業最終回に最終レポートを出す。前者のレポートは20%、後者の試験は80%の配点とする。
<b>教科書</b>	ボルノーの著作のうち、教育学の考察に役立つ教冊を活用する。特定の教科書は定めない。『実存主義と教育学』、『問いへの教育』、『実存主義克服の問題』等を中心に考察する。原則として、その日の授業に関わるレジュメを配布する。それらレジュメをファイルに保管し、授業の度に持参すること。		
<b>参考書</b>	授業中に、その都度、参考書（哲学的古典や教育哲学の関連する研究書、翻訳書）を挙げる。主要文献は、本学図書館等で利用すること。授業で出てきた専門用語や人名を、インターネット等で検索して印刷してファイルに入れておくこと。		
<b>学生への要望</b>	授業は暗記ではなく考察である。主体的に調べ考えていく力を養う場である。したがって、課題が出れば、図書館やインターネットで調べをなし、新聞を熟読し、常に知識を磨き、家政学専攻者ならではの教育哲学的アプローチを心がけ、人間の調和的発達、人間の深みとは何かということへの問いを大切に、自主的に考察を深めていって欲しい。一方において、教育哲学的古典の教養を、他方において、現実の社会の実相への洞察や社会的課題への判断力を磨いてほしい。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜から金曜まで、在室が可能な場合は面会指導は可能である。メールで予約を入れるのが便利であるが、返信用アドレスや携帯電話番号を記載しておくこと。 ishidoh@koriyama-kgc.ac.jp		
<b>自学自習</b>	レポートを書かせるので、当然ながら自学学習が求められ、哲学的教養がつく。人名とその哲学思想の予習・復習には、哲学思想事典やインターネットなどを活用することが必要である。		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	導入（その1） 哲学的人間学の特徴	・ギリシャ以来の古典的哲学の人間研究 人間としての普遍的価値の実現を求める哲学 認識論、倫理学 事例研究
2	導入（その2） 哲学的人間学の特徴	・ギリシャ以来の古典的哲学の人間研究 古典的哲学の継承と発展 デカルト哲学 カント哲学
3	マックス・シェーラーから ボルノーへの道（2）	・アリストテレス、パスカルに惹かれつつも残された現象学の足跡 階層的総合的人間像：獣性から聖性への展開
4	マックス・シェーラーから ボルノーへの道（2）	ニーチェをどうとらえたか 価値の転倒と実存哲学の関係 ボルノーの理解と呻吟

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
5	ボルノーは同時代のプラグマティズム教育哲学をどうみていたか ドイツ教育哲学とアメリカ教育哲学について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20世紀初期の実験主義的教育心理学の興隆</li> <li>・学習論における人間の「学び」の解釈</li> <li>・ジョン・デューイと実験主義的心理学のつながり</li> <li>・「経験」概念の意味を考察する。</li> </ul>
6	ボルノーにおける実存哲学の影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実存哲学から何を学び、何を克服しようとしたか</li> <li>・現象学の意義を再考する。</li> </ul>
7	ボルノーと実存主義哲学の共通項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体系性への対峙</li> <li>・非連続性をもつ人間形成への意味</li> </ul>
8	ボルノーの視点の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間形成における「非連続性」と「不確実性」の意味</li> <li>・学校教育の連続性の原理を批判することの意味</li> <li>・実存哲学（サルトル）で強調された不確実性の原理を再考する。</li> </ul>
9	ボルノーにおける人間形成論（その1）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一回性、偶然性をもつ教育的意義</li> <li>・系統的学習論や科学的学習観への批判</li> <li>・「出会い」の意味をめぐる人間形成的な包括性について</li> </ul>
10	ボルノーにおける人間形成論（その2）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「覚醒」の教育的意味の解明</li> <li>・発表：これまでの自らの人生において「覚醒」に値すると思われる瞬間があったか、あったとすれば、どのような意義を見出すか。</li> <li>→ 教育的人間論への接近をはかる。</li> </ul>
11	ボルノーにおける「限界状況」の意義の解明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤスパーズ、ハイデガー哲学の摂取と離反</li> <li>・現代哲学における「不安」の概念</li> <li>・「不安」「不条理」を彷徨する実存主義的人間観</li> <li>・「闇」たる世界観の中の自己探求の意味</li> </ul>
12	ボルノーにおける人間形成論の再構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「不安」の哲学から「希望」の哲学への転向</li> <li>・古典哲学の精神との共鳴点</li> <li>・ボルノーの実存主義は真に実存主義か</li> </ul>
13	ボルノー教育学の新展開（その1）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボルノーにおける「価値の転倒」の解釈</li> <li>・シュバイツァーの生活観・生命観への共鳴</li> </ul>
14	ボルノー教育学の新展開（その2）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家屋」の人間学的機能へのまなざし</li> <li>・住むこと、家族とは</li> <li>・私的空間と公的空間</li> <li>・現代社会と人間の生態について</li> <li>・ボルノーの「家」の哲学から考察する現代人の捉え方</li> </ul> <p>総論：個別的諸現象の人間学的解釈</p>
15	総括 ボルノーの教育的人間学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現象学的人間学の特質について</li> <li>・カントの人間学とどう違うか、どこが共通しているか</li> <li>・教育学の体系を希求しつつボルノーの教育学を再評価する</li> <li>・人生における1回性の根源的体験について</li> <li>・「未完成なもの」「完成せざるもの」としての人間像</li> </ul>

平成29年度

<b>科目名</b>	健康生活特論 I	<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	紺野 信弘		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	人間の健康について、英文専門書の翻訳を通して学習する。翻訳の過程で疫学的な考え方についての講義も行う。集団の健康を扱うのに必要な統計の手法についても学ぶ。		
<b>達成目標</b>	人間の健康、特に人間集団の健康を知る上での疫学的考え方の重要性を学ぶ。		
<b>受講資格</b>	大学院修士課程の院生	<b>成績評価 方法</b>	英文講読の和訳の提出60点、レポート提出40点 合計100点満点
<b>教科書</b>	特にありません。授業に必要な印刷物は配布します。		
<b>参考書</b>	国民衛生の動向 Healthy women, healthy lives. a harvard medical school book ISBN 978-0-7432-1774-3		
<b>学生への要望</b>	授業では、パソコンを使用することがあるので、パソコンは常に持参すること。		
<b>オフィスタイム</b>	水曜日のVコマ目、木曜日のIVコマ目 臨床生理学研究室		
<b>自学自習</b>	配布された英文の翻訳と理解		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	健康の概念	健康とはなにかを、公衆衛生学の立場から、あるいはWHO憲章、日本国憲法の生存権から考える。
2	成人の健康	生活習慣病とはなにか、またそのリスクと予防について考える。健康日本21と健康日本21（二次）について考
3	疫学（1）	疫学とは。疫学の歴史。個人の健康から集団の健康へ。
4	疫学（2）	疫学の種類。疫学の利用
5	保健統計（1）	集団の健康評価に必要な保健統計について。人口静態統計と人口動態統計について。
6	保健統計（2）	人口ピラミッド。合計特殊出生率。年齢調整死亡率。保健統計からみた少子高齢化。
7	保健統計（3）	疫学研究に必要な統計の基礎。統計ソフトIBM-SPSSについて。
8	保健統計（4）	SPSSの実際。SPSSを用いてデータの解析を行う。
9	高齢者の健康（1）	老化の概念。
10	高齢者の健康（2）	加齢による生体の生理的変化。健康と生活の質
11	女性の健康（1）	英文講読”Healthy women, healthy lives”米国ハーバード大学医学部から出版されている「女性の健康的な生き方」についてのテキストをもとに”健康”について考える
12	女性の健康（2）	上記テキストの中にある、”看護師の健康研究とは”について英文和訳をしながら学習する。
13	女性の健康（3）	”健康研究”を講読しながら疫学について解説、学習する。
14	健康生活と毒性学	化学物質の安全性。毒性物質の体内動態。農薬の毒性について理解を深める。
15	総括講義	これまでの講義をまとめ”健康”について理解を深める。

平成29年度

<b>科目名</b>	人間生体特論 I	<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	片平 清昭		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	<p>学科名 〔授業の目的・ねらい〕 人間の体はすばらしい構造と機能からなる。授業の目的は、身体の構成要素間の相互作用を理解し、生体調節系のすばらしさ、健康と病気の境界などについての学識を教授することである。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 生と死、生命の尊厳と人間のすばらしさを俯瞰し、身体のしくみとはたらき、分子生物学的知見等も解説し、受講者自身の健康管理に役立つ知識を習得しえるような授業内容とする。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 他の専門領域との関連事項等も含めて考察する自発的議論を期待します。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>学科名 〔授業の目的・ねらい〕 人間の体はすばらしい構造と機能からなる。授業の目的は、身体の構成要素間の相互作用を理解し、生体調節系のすばらしさ、健康と病気の境界などについての学識を教授することである。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 生と死、生命の尊厳と人間のすばらしさを俯瞰し、身体のしくみとはたらき、分子生物学的知見等も解説し、受講者自身の健康管理に役立つ知識を習得しえるような授業内容とする。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 他の専門領域との関連事項等も含めて考察する自発的議論を期待します。</p>		
<b>受講資格</b>	学則に従う	<b>成績評価 方法</b>	レポート作成
<b>教科書</b>	指定しない		
<b>参考書</b>	パワーポイント、DVD等を使用		
<b>学生への要望</b>	授業回数の学則厳守		
<b>オフィスタイム</b>	授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	身体のしくみとはたらき	人間の身体はしくみとはたらきに分けて考えることができる。医学領域ではしくみは解剖学であり、はたらきは生理学をいう。
2	細胞と組織	体を構成するしくみ、細胞の構造と機能、細胞、組織、器官、器官
3	iPS細胞	iPS細胞（人工多能性幹細胞）とは？ 創薬や再生医療への応用
4	皮膚	皮膚のすばらしい構造と機能、爪は皮膚の一部、汗腺
5	体温調節	体温の分布、熱の出納、体温調節、発汗
6	血液	物質を運搬するしくみ、血液の成分と物理化学的特性、血球や血漿のはたらき、造血、血液型
7	循環器系	体のすみずみまで血液を送るしくみ、心臓の構造と機能、血管の形態と機能、リンパ系
8	呼吸器系	酸素を取り入れて二酸化炭素を排出するしくみ、呼吸器系の構造と機能、外呼吸と内呼吸、ガスの運搬（血液の役割）
9	消化器系	食物を摂取して消化・吸収し排泄するしくみ、消化器系の構造と機能、肝臓と膵臓のはたらき、排便
10	泌尿器系	尿をつくるしくみ、腎臓の構造と機能、尿の生成、血液成分の調節、排尿
11	内分泌系	生体内部の環境を整えるしくみ、内分泌系とホルモン、ホルモンのはたらき
12	神経系	情報を収集して判断し、伝達するしくみ、神経系の分類、神経組織の構造と機能
13	自律神経系	交感神経系と副交感神経系のはたらき、神経伝達物質、神経性調節と液性調節
14	脳のはたらき	大脳皮質の機能局在、間脳（視床、視床下部）のはたらき、脳幹（延髄）のはたらき、生体のリズム（睡眠と覚醒）
15	総括質疑	授業内容に関する質疑、総合討論

平成29年度

<b>科目名</b>	家政学原論Ⅰ		<b>対象 単位数 必修</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	影山 彌, 安田 純子			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	家政学原論のねらいは、家政学とはどういう学問であるかを説明することにある。すなわち、家政学という学問の理念、目的、対象、方法、独自性などを考察し、家政学の学問としての要件を明らかにすることである。この問題に関連して、ヨーロッパにおける学問の動向、現代科学の特色などを予備的に理解し、本学の家政哲学、本学の家政学のパラダイムはどういうものかの理解を通して、家政学の学問としてのあり方を探究する。			
<b>達成目標</b>	本学の家政哲学を深く理解し、家政哲学に基づき、本学家政学のパラダイムを理解できること。			
<b>受講資格</b>	大学院（修士課程）	<b>成績評価 方法</b>	発言力（20%）、レポート（80%）	
<b>教科書</b>	随時、紹介する。			
<b>参考書</b>	関口富左編著『家政哲学』家政教育社 O. F. ボルノー、大塚恵一訳『人間と空間』せりか書房 G. バシュラール、岩村行雄訳『空間の詩学』思潮社 関口富左編著『人間守護の家政学』家政教育社			
<b>学生への要望</b>	参考文献を事前に読むことに努める。			
<b>オフィスタイム</b>	金曜日を除く昼休み（12：00～12：50） 創学館4階N0.2研究室			
<b>自学自習</b>	予習：当日の内容を配付資料で確認しておくこと（1時間） 復習：授業を踏まえて、レジュメを使ってノートまとめをする（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ヨーロッパにおける学問の意味について	ヨーロッパにおける学問の歴史は、古代ギリシア、ローマや12世紀ルネサンスに遡ることができるが、17世紀、自然を中心として知る、認識するという学問が科学であるという考えが明確になったことを理解する。
2	新たな科学の誕生	19世紀、イギリスを中心として数学や物理学の科学者集団が誕生し、個別科学が誕生し、発展したことを解説する。
3	新たな科学の特色	新たな科学の特色と科学者の価値意識について講ずる。
4	現代科学への警告（1）	朝永振一郎・ノーベル物理学賞受賞者、多田富雄・国際免疫学会会長、吉川弘之・日本学術会議元会長、などによる現代科学に対する警告と提言を解説する。
5	現代科学への警告（2）	村上陽一郎・国際基督教大学教授による現代科学に対する警鐘を解説する。
6	G. バシュラールの家の人間学的意味について	本学家政哲学の哲学的ベースの一つである、G. バシュラールの提起する家の人間学的意味について説明する。
7	O. F. ボルノーにおける「住むこと」の人間学的意味について	本学家政哲学の直接的な哲学的ベースである、O. F. ボルノーの「住むこと」の人間学的意味について、講演「人間とその家」を通して解説する。
8	O. F. ボルノーにおける「住むこと」の人間学的意味について	「住むこと」の人間学的意味について、O. F. ボルノー著『人間と空間』を通して解説する。
9	「家政哲学」の確立	関口富左故名誉学園長先生がO. F. ボルノーの哲学を家政学において独自に展開し、家政学の理念として「人間守護」概念を提示したこと経緯について解説する。
10	家政哲学の内容（1）	関口富左故名誉学園長先生が構築した「家政哲学」の内容について、関口富左教授編著『家政哲学』（家政教育社）を通して説明する。
11	家政哲学の内容（2）	「家政哲学」の内容について、『家政哲学』を通して説明する。
12	「家政哲学」に基づく本学家政学のパラダイムについて	「家政哲学」と本学家政学のパラダイムとの関係について説明し、パラダイムの全体像を説明する。
13	本学家政学のパラダイムについて	本学家政学のパラダイムにおける、特に研究方法—無記性的研究方法、使用価値的研究方法、人間価値創出的研究方法—の重要性について解説する。
14	本学家政学のパラダイムの意義について	本学家政学のパラダイムが、家政学のみならず学問一般にとっても不可欠な学問研究におけるパラダイムであることを論証する。
15	総まとめ	本学の「家政哲学」及び本学家政学のパラダイムに基づく、「人間守護」を理念とした学問研究を推進することが今後ますます重要であることを確認する。

平成29年度

<b>科目名</b>	生活学原論	<b>対象 単位数 必修</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	影山 彌		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	個人及び家庭、地域における生活の諸相を国民的視点に立って構造的かつ動的に捉え、人間生活に寄与する生活学原論の解明を図る。		
<b>達成目標</b>	本学の家政哲学との比較を通して、生活学の目的、対象、方法、意義について認識できること。		
<b>受講資格</b>	大学院（修士課程）	<b>成績評価 方法</b>	受講態度（20%）、レポートあるいはテスト（80%）
<b>教科書</b>	特に無し。 随時、資料を配布する。		
<b>参考書</b>	随時、紹介する。		
<b>学生への要望</b>	授業目標を毎回確認すること。		
<b>オフィスタイム</b>	金曜日を除く昼休み（12：00～12：50） 創学館4階No.2研究室		
<b>自学自習</b>	予習：当日の内容を配付資料で確認しておく（1時間） 復習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめをする（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	生活学における原論の意味	原論が、その学問の学問としての要件を明らかにするものであること、そしてその点から、生活学の学問としての要件、すなわち、生活学の目的、対象、方法、意義、などについて講義する。
2	生活という概念	生活学の対象である生活について、その概念を、（住むこと）、（生きること）、（くらすこと）という、3つのポイントからとらえる。
3	生活概念における（住むこと）の意味①	生活の概念における（住むこと）の重要性についてG. パシュラールの考えをとおして講ずる。
4	生活概念における（住むこと）の意味②	生活の概念における（住むこと）の重要性についてサン・テグジュペリの考えをとおして講ずる。
5	生活の範囲	生活が家庭を中心とし、地域、国、世界とかかわりながら展開されることを捉える。
6	生活様式の変化	生活が経済社会の変化とともに、外部化され、社会的、公共的依存を深めてきたことをとらえる。
7	生活と財・サービス	生活の外部化の中で、生活をいかに豊かにするかという視点から、生活と財・サービスの問題を講ずる。
8	生活と食糧	生活の基本である食糧について、日本及び世界的視野から講ずる。
9	生活と社会資本	生活に対する身近な政治の役割という視点から、住宅、上下水道、公園などの社会資本の整備をとりあげる。
10	生活と福祉	高齢者における豊かな生活の要件である、老人福祉の問題について講ずる。
11	生活とコミュニティ	地域生活を真に豊かにするものとする、地域におけるヒューマンな人間関係のあり方について講ずる。
12	生活と自然環境	生活が生存を基盤とすることの重要性について、自然環境問題をとおしてとらえる。
13	人間守護と生活学	生活学の目的が、家庭を核とした多様な場における生活を通して、人間が生き生きと生活するという、福祉の実現をめざすものであることを講ずる。
14	人間守護と家政学	本学の人間守護の家政学が今後の新しい人間の生活学であることを論ずる。
15	総まとめ	全体を通して、人間の生活学が今後の学問の指針であることを確認する。



科目名	生活文化史特論 I	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 2単位 選択	
担当教員	野沢 謙治			
開講期	前期			
授業概要	ここでいう文化とは文字によらない体験的な知識であり、生活史とは普通の人間が日常の社会的条件の中で生きることである。このような生活文化を歴史的にたどりながら、現代の生活文化の成り立ちと特質を考える。具体的に日本の古代に限定し、記紀や風土記などの古代の文献をもとに狩猟民の生活文化、稲作にとまなう生活文化の変化、そして中国文明の影響のもとに生まれた都市とその生活文化の特質を考える。			
達成目標	近・現代まで残存として生き続ける生活文化の根源を遡ることにより、日本人の生活文化がどのような歴史的・文化的背景のもとに生まれたかを理解できるようになる。			
受講資格	大学院修士課程 1年	成績評価 方法	レポート、100点で評価する。	
教科書	使用しない。史料はプリントして配布する。			
参考書	必要に応じ指示する。			
学生への要望	歴史的に生活文化を考えるとすることは、ということなのかを常に意識してもらいたい。			
オフィスタイム	金曜日4コマ目 創学館4階No.5研究室 自由に訪れて結構です。			
自学自習	記紀、風土記などの古代の文献をテキスト（事前に渡す）として読むので熟読しておくこと。授業の内容で不明なところは翌週の授業で聞くのでまとめておくこと。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	狩猟民の生活文化	蝦夷など古代における狩猟民の生活文化の実態をとらえながら、その生活文化が稲作文化の流入、中央文化の受容の中でどのように変化していったのか、またそれにもかかわらず何故、残存したのかを考える。
2	狩猟民の世界観	狩猟民の世界観の特徴は野獣の主、動物の供犠、頭蓋骨崇拝、人と動物との同一視である。このような世界観が古代の文献の中にどのように残っているかを考える。
3	焼畑の生活文化	稲作以前、西日本を中心に焼畑が盛んに行われ、それを土台に稲作が広まることになる。焼畑の生活文化には狩猟民の生活文化が色濃く残っている。焼畑の生産儀礼にみられる動物供犠などがその代表である。
4	肉食の禁忌	縄文時代以来の肉食は7世紀以降、禁忌となる。その原因は稲作の普及と仏教の影響による。狩りをするのが稲作に不作をもたらし、仏教の殺生禁断の思想が大きな影響をあたえた。
5	海人の生活文化	古代、山の狩猟民に対して海の狩猟民の海人がいた。北九州、瀬戸内海、日本海など各海域には漁撈を異にする海人が活動していた。海人が残した文学から海人の生活文化の特徴を明らかにする。
6	稲作文化の伝来	稲作は中国の江南地方・揚子江流域から伝来したが、日本の稲作文化をみると江南地方の稲作と似ている点、また異なる点が見られる。これは稲作の伝来の時期やルートがいくつかあったことを示している。
7	稲作と自然	稲作と定住によって自然との関係に変化が生じた。自然との一体の生活から自然を開発、征服することにもない自然との間に距離をおく自然観の誕生である。
8	豊葦原水穂国と天皇	日本の美称であった豊葦原水穂国の背景には稲作技術や水田灌漑などの発達があった。しかも神話の世界では豊葦原水穂国は高天原の神々の世界、いかにいえば天皇の誕生と密接な関係があった。
9	稲と大嘗祭	古代における稲の収穫祭の中でも殊に天皇の代わりに行われる大嘗祭は天皇の聖性の根源にかかわる儀礼であった。大嘗祭の目的は天皇が新米を食べることであった。それによって天皇は日本中の稲の魂を自分のものにするのができたのである。
10	都市の成立	中国の都市は天子が住み周囲は城壁に囲まれていた。しかし平城京や平安京には城壁がなかった。ここに都市に対する日本人の独自性をうかがうことができる。しかもかつての天皇の宮は自然の中にあった。
11	都市の季節性	平城京などの都市に生活する貴族や官人は当初、都市の外に生活の拠点をもち、自然の移り変わりの中で暮らしていた。やがて都市の外での生活とのつながりがなくなり、そこに今までにない自然観が生まれることになる。
12	都市と地方	平城京などの都市に長く生活する人々と意識の中に中央と地方という差別意識が生まれてくる。都市、中央が文化的に優れ、地方は劣るという意識が芽生えてくる。
13	都市とケガレ	平安京などの都市は災害に弱く、生活環境も劣悪であり、病気や死が身近にあった。しかも都市は政争が起こる場であった。このような病気や死への恐れ、そして怨念がケガレの対象を生み出した。
14	都市の祭り 1	平安京で生まれた御霊会（後の祇園祭り）は従来の稲作に関係した春と秋の祭り、豊作を予祝し、感謝する祭りとは全く違っていた。それは怨霊を鎮める夏の祭りであり、都市の祭りの誕生であった。
15	都市の祭り 2	都市の祭りを支えたのはどのような人々であったのか。都市は多様な人々を抱え込んでいるが、注目したいのは京童である。かれらは都市におけるアウトローであり、反権力的意識をもっていった。そのため祭りは非日常的なものになった。

平成29年度

<b>科目名</b>	生活文化史特論Ⅱ		<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	桑野 聡			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	大学院生として各自の専門研究領域を客観的に位置づけられる視野を持つことを目標に、歴史学・文化史の立場から現代的・社会的問題の所在を考える。 ヨーロッパ文化（欧米文化）を例に院生各自の研究に対応した課題を取り上げながら、文化の形成・変容・継承の問題を考える。近代文明が多数の地域文化の融合の上にヨーロッパ文化を共通要素として形成されていることに着目し、その問題点を考えると共に、私たちの未来に関わる諸問題を検討する機会を作ってみたい。			
<b>達成目標</b>	問題を見つける姿勢・討論する力・調べる方法と技術などを身に着ける。			
<b>受講資格</b>	本学大学院生	<b>成績評価 方法</b>	授業時の討論（30%）と期末レポート（70%）	
<b>教科書</b>	桑野聡「欧米諸国における生活と文化」（関口富左編著『人間守護の家政学』家政教育社 1999年）264～274～276頁			
<b>参考書</b>	授業時に適宜紹介する。			
<b>学生への要望</b>	①自分自身の研究テーマをきちんと説明できる姿勢をもつこと。 ②新聞やニュースを見る日常生活の姿勢をもつこと。 ③議論に積極的に参加する主体性をもつこと。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日・水曜日のⅡ時限目（10:30～12:00） 考古学研究室			
<b>自学自習</b>	テキストに目を通し、高校世界史程度の事象については確認をしておくこと。高校時代に使用した教科書・資料集を手元に用意し、新聞やテレビ番組など、文化的情報にアンテナを立てる姿勢を持つこと。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	参加院生の研究テーマを確認し、授業の進め方を検討する。
2	講読1-①	村田哲朗「文化の多様性」をテキストに、文化と文明について討論する。
3	講読1-②	村田哲朗「文化の多様性」を踏まえて、各自の研究との関連テーマで討論を実施する。
4	講読2-①	桑野聡「欧米諸国における生活と文化」をテキストに通読し、問題点の洗い出しを行う。
5	講読2-②	桑野聡「欧米諸国における生活と文化」第1章を手掛かりに、日本人にとってのヨーロッパについて考える。
6	講読2-③	桑野聡「欧米諸国における生活と文化」第2章を手掛かりに、中世ヨーロッパの貴族の誕生について考える。
7	講読2-④	テキスト第2章を手掛かりに、騎士と騎士道について考える。
8	講読2-⑤	テキスト第2章を手掛かりに、貴族の彫像、横臥像について考える。
9	講読2-⑥	テキスト第2章を手掛かりに、中世の食事について考える。
10	講読2-⑦	テキスト第2章を手掛かりに、中世の恋愛について考える。
11	講読2-⑧	桑野聡「欧米諸国における生活と文化」第3章を手掛かりに、近世における文明化の問題を考える。
12	講読2-⑨	テキスト第3章を手掛かりに、近世の「家政学」について考える。
13	講読2-⑩	桑野聡「欧米諸国における生活と文化」第4章を手掛かりに、近代における異文化理解について考える。
14	まとめ	半期の講義をまとめ、各自の研究テーマとの関係からレポートのテーマを検討する。
15	エピソード	レポートを提出し、これを材料に最終の討論を行う。

平成29年度

<b>科目名</b>	生活経済学特論		<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	石田 智宏			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕 本講座の目的は、経済と公共徳の観点から人間生活にとって価値のあるものは何かを問い、また、人間の幸福が何に依存するかを生活と経済のかかわりにおいて探求することである。さらに、消費生活と公共生活との相互関係や質的相違について理解することを目的とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 本講座ではまず、スミス、カント、ロールズ、サンデルらによる公共哲学の思想を参考にしながら、社会徳的観点での「よい社会 (good society)」と経済との関係について議論していく。また、近年のOECDの調査を中心とする主観的幸福度の実証結果を参考に、幸福度から見た「よき人生 (well-being)」について考察を加える。</p> <p>〔授業終了時の達成課題 (到達目標)〕 市民生活に社会 (公共空間・地域) が果たす役割が理解できること。 経済が現代生活に与える影響力について理解できること。 幸福度研究の含意と社会指標としての意義を議論できること。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕 本講座の目的は、経済と公共徳の観点から人間生活にとって価値のあるものは何かを問い、また、人間の幸福が何に依存するかを生活と経済のかかわりにおいて探求することである。さらに、消費生活と公共生活との相互関係や質的相違について理解することを目的とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 本講座ではまず、スミス、カント、ロールズ、サンデルらによる公共哲学の思想を参考にしながら、社会徳的観点での「よい社会 (good society)」と経済との関係について議論していく。また、近年のOECDの調査を中心とする主観的幸福度の実証結果を参考に、幸福度から見た「よき人生 (well-being)」について考察を加える。</p> <p>〔授業終了時の達成課題 (到達目標)〕 市民生活に社会 (公共空間・地域) が果たす役割が理解できること。 経済が現代生活に与える影響力について理解できること。 幸福度研究の含意と社会指標としての意義を議論できること。</p>			
<b>受講資格</b>	とくになし	<b>成績評価 方法</b>	期末レポート100点	
<b>教科書</b>	教員が毎回資料を配付する			
<b>参考書</b>	ブルーノ・S・フライ、『幸福の政治経済学』、ダイヤモンド社、2005。			
<b>学生への要望</b>	①毎回の内容をよく把握し、議論に参加すること ②現代の社会生活に関する興味・問題意識をもつこと。			
<b>オフィスタイム</b>	水曜5限 (授業後) の教務部非常勤控室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	社会道徳科学としての経済学	社会道徳科学としての経済学 道徳のいくつかの問題
2	スミスの倫理と経済学	経済システムと生活世界 共感と神の手
3	経済と道徳的観点	マクロ経済と分配問題 女性労働力・非正規労働の課題
4	地域生活と自己統治	共同体の役割と新しい公共 公共的利益と市民的美徳について
5	社会に組み込まれる経済	市場主義と功利主義について 家事の社会的意義
6	社会的公正と公共心	教育、医療、福祉の市場化 公共空間の地位について
7	道徳と市場の境界	エンハンスメントの課題 被贈与性・生命の尊厳について
8	社会と道徳の空洞化	個人と私人について 地域文化とまちづくり
9	主観的ウェル・ビーイング	主観的幸福の内容と指標化 厚生経済学の命題と幸福の要因
10	幸福のフローとストック	瞬間幸福と累積幸福 加齢と幸福の関係
11	幸福の諸要因	生活満足度について ボランティアと幸福度
12	就業・所得と幸福	向社会的行動の意義 仕事の果たす役割
13	健康と幸福	健康の自己評価について 医療経済学との異同
14	家族・結婚と幸福	所得水準と結婚 結婚のメリット
15	新たなコミュニティをひらく	社会道徳の意義 消費生活と公共生活の関係

平成29年度

<b>科目名</b>	社会福祉学特論		<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	村田 清			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕 ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、ジェントルティーチングなどの社会福祉の理論を学び、社会福祉の法制度がどのように整備・改正されてきたのかを踏まえて、社会福祉の現状と課題について理解する。さらに、児童家庭福祉。高齢者福祉、障害者福祉、地域福祉などの各領域について、実践に基づいた考察・研究を深める</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 資料に基づいて講義をし、文献、映像、写真などを参考に理解を深め、質疑や討論を行って社会福祉の全体像を把握する。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 社会福祉の理論を理解し、福祉援助者として必要な基礎的知識・技術や倫理性を習得する。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕 ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、ジェントルティーチングなどの社会福祉の理論を学び、社会福祉の法制度がどのように整備・改正されてきたのかを踏まえて、社会福祉の現状と課題について理解する。さらに、児童家庭福祉。高齢者福祉、障害者福祉、地域福祉などの各領域について、実践に基づいた考察・研究を深める</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 資料に基づいて講義をし、文献、映像、写真などを参考に理解を深め、質疑や討論を行って社会福祉の全体像を把握する。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 社会福祉の理論を理解し、福祉援助者として必要な基礎的知識・技術や倫理性を習得する。</p>			
<b>受講資格</b>	大学院生	<b>成績評価 方法</b>	レポート(50)、授業態度や研究意欲等(50)により総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	特に指定しない			
<b>参考書</b>	国民の福祉と介護の動向（厚生労働統計協会発行）			
<b>学生への要望</b>	社会福祉の理念や意義を理解し、地域社会での人々の支えあいの在り方を学んでほしい。			
<b>オフィスタイム</b>	授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション、社会福祉とは何か	オリエンテーション、社会福祉の基礎概念と現代社会について学習する。
2	社会福祉の歴史と変遷	社会福祉の歴史とその移り変わりについて、我が国と諸外国のあらましを学習する
3	社会福祉をめぐる近年の動向	高齢化・少子化の進展と時代の変化に対応した法律や制度の改正について学習する。
4	社会福祉基礎構造改革とノーマライゼーション	ノーマライゼーションやリハビリテーション理念の浸透や現代社会に影響を与えている社会福祉理論について学習する。
5	子ども家庭福祉の現状と課題	次世代育成や子育て支援・少子化対策など子供家庭福祉の現状と課題について学習する。
6	高齢者福祉の現状と課題	介護保険やさまざまな高齢者福祉サービスについて理解を深める。
7	障害者福祉の現状と課題	障害児者の福祉について、我が国の障害者施策や、ソーシャルインクルージョンの考え方を理解し、今後の障害者福祉を展望する。
8	地域福祉の現状と課題	地域の住民福祉の現状や社会福祉協議会の活動を学び、日常生活支援事業など地域の新しい支え合いについて学習
9	社会福祉サービス利用者の権利擁護	社会的に弱い立場にある人の人権を守る制度や思想について、また非暴力の支援理論であるジェントルティーチングを学習する。
10	社会福祉の行政組織と関係機関	社会福祉を担う行政組織や関係機関の役割や業務の内容について学習する。
11	社会福祉サービスの担い手	社会福祉サービスを担う専門職や従事者の現状と業務の内容について学習する。
12	社会福祉援助技術と援助の原則	社会福祉サービスを実施する理論や方法と基本的な原則について学習する。
13	社会福祉施設等の社会資源	社会福祉サービスを実際に行う施設や地域の社会資源、ネットワークについて学習する
14	社会福祉専門職の倫理と行動規範	社会福祉専門職の諸団体における倫理綱領等を通して求められる援助者の態度や理念について学ぶ。
15	まとめ	社会福祉の理念や制度についてまとめを行い、人間の地域生活や支えあうコミュニティのあり方を考える。

<b>科目名</b>	障害者福祉特論		<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	村田 清			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕          障害者福祉制度は大きく変わりつつあります。ノーマライゼーションなどの理念に基づいた変化の内容と、障害者総合福祉法など新しい制度やシステムを学び、一人ひとりをかけがえのない存在として尊重し、生活を支える障害者の支援の実施を理解します。ジェントルティーチングやティーチプログラムといった援助理論についても研究を深めます。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕          講義資料に基づいて研究します。関連文献や映像に触れて理解を深め、障害者福祉の現状や課題についてともに考察します。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕          障害者の生活実態を理解し、ともに生きる社会の実現についての考え方をまとめます。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕          障害者福祉制度は大きく変わりつつあります。ノーマライゼーションなどの理念に基づいた変化の内容と、障害者総合福祉法など新しい制度やシステムを学び、一人ひとりをかけがえのない存在として尊重し、生活を支える障害者の支援の実施を理解します。ジェントルティーチングやティーチプログラムといった援助理論についても研究を深めます。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕          講義資料に基づいて研究します。関連文献や映像に触れて理解を深め、障害者福祉の現状や課題についてともに考察します。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕          障害者の生活実態を理解し、ともに生きる社会の実現についての考え方をまとめます。</p>			
<b>受講資格</b>	大学院 1年生	<b>成績評価 方法</b>	学習態度・意欲（50）、レポート（50）など総合的に評価します。	
<b>教科書</b>	特に使用しない			
<b>参考書</b>	国民の福祉と介護の動向			
<b>学生への要望</b>	意欲ある学習態度をもって、ノートをとり、問題意識をもって研究を深める。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日 授業終了後			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション、障害者福祉の視点	授業についてオリエンテーション。 現代社会と障がい者、障がい者親や障がい者と家族及び地域社会など、障がい者福祉の視点について学ぶ。
2	障害者福祉の歴史と新たな展開	諸外国や我が国の障がい者福祉のあゆみと、障がい者福祉の新たな展開について学習する。
3	障害者福祉の基本的理念	現代における障がい者福祉の基本理念について、ノーマライゼーション、リハビリテーション、ソーシャルインクルージョンなどさまざまな理論を通して学習する。
4	障害者福祉における支援の実践	障がい者支援の実践について、ソーシャルワークのさまざまなアプローチやエンパワーメントの視点、ジェントルティーチングに基づく実践について学習する。
5	障害の概念と定義	障がいの概念や定義、社会における障がい者の理解や受け止め方について、法律的な定義や国際的な障がい分類を通して学習する。
6	障害者の生活ニーズや支援の視点	障がい者の様々な特性や生活ニーズを理解し、社会福祉の援助方法や理論、援助活動の実践について、学習する。
7	障害者福祉に関する法体系及び障害者施策	我が国の障がい者福祉の法体系やさまざまな障がい者施策及び実施期間について学習する。
8	障害者福祉のサービス体系	障がい者自立支援法の制定から障がい者総合支援法への改正など法体系の変遷と福祉サービスの内容について学習する。
9	障害者の生活保障	障がい者の生活を支える経済的な支援制度や雇用や教育の課題について学習する。
10	障害者福祉にかかわる専門職	社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士等の専門職のソーシャルワークやケアワークの等の業務について学び、障害者支援に係る専門職の役割や実際について理解を深める。
11	障害者ケアマネジメントとケアプラン	さまざまな障がい者のケアマネジメントにおける方法や展開過程を学び、障がい者の個別支援計画や援助の実践について理解を深める。
12	障害者の社会参加と文化・スポーツ	障がい者の文化、スポーツや福祉レクリエーションへの参加や社会的活動の現状について理解する。
13	障害者の権利擁護	成年後見制度や日常生活支援事業、苦情解決制度、運営適正化委員会等、障がい者の権利を守る制度やシステムについて学ぶ。
14	障害者支援の事例研究	事例を通して障害者支援の実践を学ぶ。
15	まとめ	障害者福祉の課題と今後の方向についてまとめを行う。

科目名	科学的衣生活特論	対象 単位数 必修	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 2単位 必修
担当教員	武井 玲子		
開講期	前期		
授業概要	ヒトと被服、それらを取り巻く環境とから成り立っている衣生活を対象として、現在のトピックスを取り上げ、総合科学や生活者視点から問題点や今後の課題を考察する。		
達成目標	衣生活に係わる諸問題に対して、科学的視点および生活者視点に立ち解決することができる。 また、安全・安心・環境負荷低減を目指した衣生活を築くことができる。		
受講資格	s	成績評価 方法	①課題レポート：30点 ②期末レポート：70点
教科書	配布資料に基づいて授業を進める		
参考書	NO2被服学研究室所蔵図書		
学生への要望	日常の生活の中で、衣生活（被服と人間、それを取り巻く環境）に関する動向や情報に関心を持ち、問題意識を持つこと。		
オフィスタイム	火曜日（2コマ）：NO2被服学研究室 水曜日（全日）：NO2被服学研究室		
自学自習	講義の最初に、前回の授業内容や最近の衣生活に関するトピックスをテーマにした調査結果や感想について発表し、議論する時間を設ける。そのための準備を実施すること。 事前学習：1時間、事後学習：1時間		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	①シラバスにしたがって、本講義の概要や目標、進め方や評価方法などについて説明する。 ②講義の事前学習や事後学習の必要性を説明する。
2	被服着用品目的と被服の機能	被服の着用目的と機能は、時代、社会、文化の変遷に伴いながら変化する。被服の起源や被服の着用目的の変遷を学び、現在の衣生活について問題点を抽出する。 特に、被服着用の主要な3つの目的（①生理学的、②心理的、③社会的・文化的）の変化を価値観・意識の変化の視点から考察し、今後の衣生活を展望する。
3	被服の素材の種類と特徴	被服を構成する素材（繊維、糸、布）の種類と特徴を、被服に必要な機能との関連で理解を深める。さらに、年々進歩している新機能素材の例や素材の染色と加工について、映像や実物を観察しながら理解を深める。
4	被服の選択・購入の現状	被服を選択・購入する、被服の表示（素材、取扱い絵表示、サイズ、デメリット表示など）全般の種類を調べ、生活者視点での問題点と課題を考える。
5	被服の着用による問題点と課題	被服の着用方法の変化、被服着用による汚れの種類と付着メカニズムを科学的に理解する。
6	被服の洗濯・手入れ方法とそのメカニズム	被服に付着した汚れの除去方法について、素材・形、染色などの被洗物の特徴に応じた適切な方法を理解する。家庭およびクリーニング店での汚れの除去方法の特徴と違いや家庭洗濯に用いられる市販洗剤の種類と特徴、使用方法、表示の見方などを調べ、生活者視点から問題点を抽出する。
7	被服の保管の問題点と課題	現在の被服の保管実態を調査し、問題点・課題を抽出する。市販されている防虫剤の種類と特徴を把握し、現時点での望ましい保管方法をまとめる。
8	衣生活と環境（1）	生活者が衣生活の一貫として実践している被服の選択・購入、着用、手入れ・保管、廃棄という被服のライフサイクルにおいて、エネルギーと資源の消費（インプット）、炭酸ガスや廃棄物の排出（アウトプット）を評価するライフサイクルアセスメント（LCA）の考え方に基づいて、衣生活における環境負荷を考察する。
9	衣生活と環境（2）	洗剤を例として、その使用による環境負荷影響の歴史の変遷を知る。衣生活を営むことに伴う地球環境負荷影響を理解し、より環境負荷低減をめざした生活とはどのような生活であるかを考察する。
10	衣生活と環境（3）	被服の死蔵（1年間着用していない状態）実態調査や被服の廃棄実態調査結果を参考として、環境を配慮した衣生活を5R（Reduction, Reuse, Recycle, Repair, Remake）の視点から考察し、今後の課題を抽出する。
11	衣生活と環境（4）	衣生活において必要とされる水資源（植物繊維の成長、染色、洗濯水）について、地球上での循環、汚濁と規制、使用実態、上水・下水処理場の役割、などを調査し、理解を深める。
12	事例研究（1）	被服の事例として、生理用ナプキンを取り上げ、その構造と種類、機能について実験的に学び、生活者視点、環境負荷低減の視点から生理用ナプキンの望ましい使用方法について考察する。
13	事例研究（2）	衣生活環境を中心とした香り・ニオイについて、その発生原因と対策、問題点について考察する。
14	衣生活と安全性	安全と安心の考え方を学び、現在の衣生活における安全性問題を抽出し、その解決方法と課題を考える。
15	まとめ	衣生活を巡る消費者問題、環境問題を振り返り、これらの問題は衣生活に限らず生活全般に共通する問題であること、生活者視点での考察が重要であることを理解する。

<b>科目名</b>	科学的衣生活演習	<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	難波 めぐみ		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	<p>[授業の目的・ねらい] 昨今の衣生活がおかれている現状を、研究論文や文献調査から問題点や課題の抽出をおこなう。専門分野の理解の深化と、高い研究遂行能力の育成を目指す。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 衣生活の歴史と学問領域について、衣生活分野での研究テーマの選定方法と課題、衣生活がこれからの生活の中で果たす役割などについて学ぶとともに、研究論文の作成方法などを習得する。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>[到達目標] ①衣生活分野の学問領域について理解する。 ②先行研究から課題を抽出し、衣生活の研究の理解と深化する。 活における研究テーマの選定方法を理解し、新たな学問探求ができるようになる。</p>		③衣生
<b>受講資格</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> <li>・家庭科専修免許を取得希望する場合は必修。</li> </ul>	<b>成績評価 方法</b>	①平常点（授業態度）30% ②課題（発表、提出物）30% ③理解度（レポート、テストなど）40% ①~③の総合評価60点以上で合格とする。
<b>教科書</b>	授業毎に配布する。その配布資料に基づいて授業を進める。		
<b>参考書</b>	随時提示。		
<b>学生への要望</b>	日常生活の中で衣生活に興味や関心を持ち、探究心をもってより良い衣生活の提案ができるような学びとなるよう、積極的な姿勢で取り組むことを心掛けて欲しい。		
<b>オフィスタイム</b>	月（Ⅱ、Ⅲコマ）、火（Ⅱ、Ⅲコマ）場所：家政学館4F被服学研究室。不在の場合もありますので、授業終了後確認してください。		
<b>自学自習</b>	予習：衣生活に関する新聞記事などを探し、問題点や疑問点をまとめておくこと（60分） 復習：予習での学びや授業内容をノートに整理し、衣生活について理解を深めること（60分）		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	本授業の概要及び演習内容の提示。
2	衣生活の歴史と学問領域	今日に至るまでの衣生活の変革と、学問領域について学ぶ。
3	衣生活（和服）の歴史	衣生活を理解する上で重要な日本の和服の歴史を学び、現在の衣生活の問題を考える。
4	衣生活（洋服）の歴史	現在の衣生活を理解する上で洋装の変遷は重要である。西洋の歴史から日本への洋装の流れを学び、衣生活の問題を考える。
5	環境と衣生活、安心・安全な衣生活について	衣生活は環境、そして、安全面を切り離して考えることは出来ない重要な生活である。第6回以降の研究の方法を学ぶために、衣生活の基本的知識の修得を図る。
6	研究の方法について	前回までの学修した内容をもとに、日本家政学会、日本服飾文化学会等の先行研究を理解し、衣生活分野での論文作成手法を理解する。
7	研究の方法について	第6回に引き続き、先行研究調査をもとに、衣生活の問題点の抽出方法及び分析方法を学ぶ。
8	研究の方法について	前回に続き、先行研究の調査及び問題点の抽出から、現在の衣生活の問題点を明らかとしていく。
9	研究の方法について	3回に渡って調査してきた内容をもとに、各自の衣生活をキーワードとして、次週の発表内容を作成する。
10	研究の方法について	先行研究調査からえられた研究の手法を取り入れて、衣生活をキーワードに発表を行う。研究手法としての評価を討論する。
11	衣生活の今日的なテーマと研究方法について	最新の衣生活の課題と研究の方法を学ぶ。
12	衣生活のこれからを考える	衣生活の果たす役割を考える。
13	研究への応用及び研究計画の作成方法	これまでの学修から、可能とされる研究内容を選出し、研究計画、計画の妥当性等評価する。また、研究計画の作成方法を学ぶ。
14	まとめ（1）	これまでの演習で修得した内容を元に、レポートの制作に取り組む。
15	まとめ（2）	レポートの提出内容確認。プレゼン及び討論。本講座の総括をおこなう。

平成29年度

<b>科目名</b>	科学的衣生活実験	<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	武井 玲子		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	衣生活に関する調査研究や実験研究の適正な企画と理念を学ぶ。研究対象としては、代表的な先行研究を数種選択し、モデル試行する。さらに、結果の解析・検討を実施した結果に基づき、論文作成を試行する。論文作成時には、投稿論文のスタイル、引用文献と著作権について理解を深める。		
<b>達成目標</b>	調査研究（実験研究）をデザインし、調査あるいは実験を推進し、得られたデータを解析・評価し、これらをレポートにまとめること		
<b>受講資格</b>		<b>成績評価 方法</b>	授業態度：30点 期末レポート：70点
<b>教科書</b>	必要に応じた参考資料を配布する。		
<b>参考書</b>	日本家政学会誌、日本繊維製品消費科学会誌、ほか関連学会誌		
<b>学生への要望</b>	平日頃から、問題意識と探究心を持ち、関連論文を多数読み込み、質の良い論文を見分ける能力を養うこと。		
<b>オフィスタイム</b>	火曜日（2コマ）：N02被服学研究室 水曜日（全日）：N02被服学研究室		
<b>自学自習</b>	自分で目標を決め、関連学会誌を読むこと（事前学習、事後学習時間は計2時間）		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	本授業の概要や目標、講義の進め方や評価方法などを説明する。
2	ガイダンス	本授業の概要や目標、講義の進め方や評価方法などを説明する。
3	日本家政学会誌調査（1）	日本家政学会誌に掲載されている論文（実験）を選択し、読み合わせをする。実験方法や実験結果、考察などを読み込み、実験研究のデザインや進め方を理解する。
4	日本家政学会誌調査（1）	日本家政学会誌に掲載されている論文（実験）を選択し、読み合わせをする。実験方法や実験結果、考察などを読み込み、実験研究のデザインや進め方を理解する。
5	日本家政学会誌調査（2）	日本家政学会誌に掲載されている論文（調査）を選択し、読み合わせをする。調査方法や調査結果、考察などを読み込み、調査研究のデザインや進め方を理解する。
6	日本家政学会誌調査（2）	日本家政学会誌に掲載されている論文（調査）を選択し、読み合わせをする。調査方法や調査結果、考察などを読み込み、調査研究のデザインや進め方を理解する。
7	日本繊維製品消費科学会誌調査（1）	日本繊維製品消費科学会誌に掲載されている論文（調査）を選択し、読み合わせをする。調査方法や調査結果、考察などを読み込み、調査研究のデザインや進め方を理解する。
8	日本繊維製品消費科学会誌調査（1）	日本繊維製品消費科学会誌に掲載されている論文（調査）を選択し、読み合わせをする。調査方法や調査結果、考察などを読み込み、調査研究のデザインや進め方を理解する。
9	日本繊維製品消費科学会誌調査（2）	日本繊維製品消費科学会誌に掲載されている論文（調査）を選択し、読み合わせをする。調査方法や調査結果、考察などを読み込み、調査研究のデザインや進め方を理解する。
10	日本繊維製品消費科学会誌調査（2）	日本繊維製品消費科学会誌に掲載されている論文（調査）を選択し、読み合わせをする。調査方法や調査結果、考察などを読み込み、調査研究のデザインや進め方を理解する。
11	調査（実験）研究のテーマの選択	テーマの選定をする。
12	調査（実験）研究のテーマの選択	テーマの選定をする。
13	調査（実験研究）のテーマの選択	テーマの選定をする。
14	調査（実験研究）のテーマの選択	テーマの選定をする。
15	調査（実験）研究のデザイン・進め方	テーマにそった調査（実験）研究の企画デザインを作成する。
16	調査（実験）研究のデザイン・進め方	テーマにそった調査（実験）研究の企画デザインを作成する。
17	調査（実験）研究のデザイン・進め方	テーマにそった調査（実験）研究の企画デザインを作成する。
18	調査（実験）研究のデザイン・進め方	テーマにそった調査（実験）研究の企画デザインを作成する。
19	調査（実験）研究の推進	調査（研究）を実施し、結果を求める。
20	調査（実験）研究の推進	調査（研究）を実施し、結果を求める。
21	調査（実験）研究の推進	調査（研究）を実施し、結果を求める。
22	調査（実験）研究の推進	調査（研究）を実施し、結果を求める。
23	調査（実験）研究の推進	調査（研究）を実施し、結果を求める。
24	調査（実験）研究の推進	調査（研究）を実施し、結果を求める。
25	結果の考察	結果を解析し、考察する。
26	結果の考察	結果を解析し、考察する。
27	レポート作成	レポートを作成する。
28	レポート作成	レポートを作成する。
29	レポートの評価、学会発表、学会誌投稿方法	投稿論文用のスタイルで論文を書くにあたり、引用文献の書き方や著作権について理解を含める。
30	レポートの評価、学会発表、学会誌投稿方法	投稿論文用のスタイルで論文を書くにあたり、引用文献の書き方や著作権について理解を含める。



平成29年度

科目名	科学的食生活特論	対象 単位数 必修	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 2単位 必修
担当教員	鍛野 信子		
開講期	前期		
授業概要	大学の4年間は、管理栄養士、栄養教諭などの資格取得のためのカリキュラムに従って、「食生活の周辺」を「学び、理解して、覚える」ことであった。大学院修士課程においては、「学び、理解して、覚える」からさらに前進し、周知されているテキストレベルの情報を基礎として、各種学術雑誌等の論文や最新情報を読み解く。併せて、日本人の食生活の特徴的な事柄を「食べ物文化史（英語版）」で英文を購読する。		
達成目標	各種学術雑誌等の論文や最新情報を読み解くことにより「食生活の功罪」を科学的側面から「論ずる力」を養うこと、および、英文購読により日本の食生活を海外に伝える力を養うことを目標とする。		
受講資格	大学院修士課程の学生	成績評価 方法	①レポート80% ②英文購読20%
教科書	①「食べ物文化史」：永山久夫監修、（株）優しい食卓(2,381円＋消費税) ②資料を配布する。		
参考書	授業内で案内する。		
学生への要望	①日々の生活の中で、常に食品に関心を持ってください。 ②食文化などにも関心を持ってください。 ③客観的な立場で考える力を身に付けてください。		
オフィスタイム	月曜日4時限および木曜日4時限のNo.2食品学研究室		
自学自習	予習：毎回、次週に向けた予習内容を指示しますので、そのことについて事前学習をして下さい（1時間）。 復習：その日の授業内容についてノート整理をしてください（1時間）。		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	導入：授業の目的	導入として、大学院修士課程においては、「学び、理解して、覚える」からさらに前進し、周知されているテキストレベルの情報を基礎として、各種学術雑誌等の論文や最新情報を読み解き、「食生活の功罪」を科学的側面から「論ずる力」を養うことを目標とすることを理解する。
2	機能性表示食品	「機能性表示食品の未来観測～市場拡大と制度の行方～」について、最新情報を読み解く。 参考資料：FOOD STYLE 21, Vol. 20, No.1, 38-81 (2016) 食品と容器, Vol. 57, No. 1, 6-45 (2016)
3	海外の食事情	「ファストフードの展開とこれから」について、最新情報を読み解く。 参考資料：食品と容器, Vol. 57, No. 2, 93-113 (2016) 食品と容器, Vol. 57, No. 1, 46-71 (2016)
4	「縄文時代」と「弥生・古墳・飛鳥時代」の食生活	「縄文時代」と「弥生・古墳・飛鳥時代」の食生活について、英文購読し、日本の食生活を海外に伝える力を養う。
5	ロコモティブシンドロームとサルコペニア	「ロコモティブシンドロームとサルコペニア対策と栄養」について、最新情報を読み解く。 参考資料：FOOD STYLE 21, Vol. 20, No. 2, 35-65 (2016)
6	「奈良時代」と「平安時代」の食生活	「奈良時代」と「平安時代」の食生活について、英文購読し、日本の食生活を海外に伝える力を養う。
7	脳の健康と食を考える	「栄養状態と嗜好性」、「認知予防軽減」などについて最新情報を読み解く。 参考資料：食品と開発, Vol. 51, No. 3, 4-12 (2016)
8	「鎌倉時代」と「室町・安土桃山時代」の食生活	「鎌倉時代」と「室町・安土桃山時代」の食生活について、英文購読し、日本の食生活を海外に伝える力を養う。
9	美容と生活スタイル	「美用資材と健康動向」の最新情報を読み解く。 参考資料：FOOD STYLE 21, Vol. 20, No. 3, 32-66 (2016)
10	「江戸時代」と「明治・大正時代」の食生活	「江戸時代」と「明治・大正時代」の食生活について、英文購読し、日本の食生活を海外に伝える力を養う。
11	ハラルフード	「ハラルビジネスのマーケティング」について、最新情報を読み解く。 参考資料：食品と開発, Vol. 51, No. 4, 80-81 (2016)
12	「昭和時代」の食生活	「昭和時代」の食生活について、英文購読し、日本の食生活を海外に伝える力を養う。
13	体内時計	「体内時計と脂質栄養学」について、最新情報を読み解く。 参考資料：食品と開発, Vol. 51, No. 1, 4-13 (2016)
14	介護食・高齢者食	「おいしくて使いやすい介護食・高齢者食の開発・普及」について、最新情報を読み解く。 参考資料：FOOD STYLE 21, Vol. 20, No. 4, 33-75 (2016)
15	まとめ	2回～14回までの内容について討論を行う。

平成29年度

科目名	科学的食生活演習	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 2単位 選択
担当教員	広井 勝		
開講期	後期		
授業概要	きのこ、油脂、甘味料、エゴマ、お茶、牛乳、魚など身近な食品の機能性を中心に説明する。また院生自ら食生活に関連した雑誌等を読み、プレゼンテーションを行う能力を身につける。		
達成目標	きのこ、油脂、甘味料、エゴマ、お茶、牛乳、魚など身近な食品の機能性を中心に説明する。また院生自ら食生活に関連した雑誌等を読み、プレゼンテーションを行う能力を身につける。		
受講資格	大学院修士課程 1年	成績評価 方法	出席時間が開講時間の2/3以上で、授業の討議態度（20%）ならびにレポート（80%）で評価する。
教科書	資料を配布する。		
学生への要望	日頃、食物や栄養に関心を持つこと。		
オフィスタイム	木曜日		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	きのこの栄養価と機能性	きのこの栄養成分の特徴と機能性について解説する。
2	食、毒きのこの見分け方、きのこの毒成分について	秋になるときのこ中毒が新聞をにぎわします。そのほとんどはクサウラベニタケ、ツキヨタケ、カキシメジの3種のきのこにより引き起こされます。これらきのこの見分け方や間違いやすい食用きのこの違いについて解説しさらに毒成分について説明する。
3	油脂の性質と脂肪酸について	油脂の化学的性質や栄養的に大事な脂肪酸について解説する。
4	油脂の劣化とその防止法について	油脂の劣化の要因とその防止法について解説する。
5	砂糖ならびに新甘味料の性質について	砂糖ならびに砂糖に変わる甘味料の功罪について考える。
6	大豆の食文化と機能性	日本人が大豆をいかにうまく食生活に取り入れてきたか、大豆パワーと機能性について学ぶ。また、大豆を利用した発酵食品の機能性についても学ぶ。
7	エゴマの成分と機能性	エゴマ油は日本人に不足しがちな、 $\alpha$ -リノレン酸を多量に含み、リノール酸の取りすぎによる弊害を防ぐ油として注目されている。エゴマは油だけでなく種子や葉にも機能性成分を含む。これらの成分の特徴とその利用法について解説する。
8	野菜の機能性	野菜はビタミンやミネラルの給源として欠く事の出来ないものですが、食物繊維の給源としても大事な食品です。野菜類のもつ機能性についてまとめてみる。
9	お茶の機能性	毎日飲むお茶は心の安らぎを与えるだけでなく、お茶を飲むことにより健康に寄与する部分が多い、お茶に含まれる多くの機能性成分について学ぶ。
10	牛乳・乳製品の機能性について	牛乳・乳製品の持つ機能性について考える。
11	魚介類の機能性	日本人は多くの魚介類を毎日の食卓にあげてきており、「魚を食べると頭がよくなる」と言った言葉も聞かれる。魚の持つ健康によい物質は何か、本当に頭がよくなるのかなど考えてみたい。
12	食品の機能性についてのまとめ	11回までの授業を振り返り、食品の持つ機能性についてまとめる。
13	食生活に関連した発表	食生活に関連したトピックスについて院生自らが発表する。
14	食生活に関連した発表	食生活に関連したトピックスについて院生自らが発表する。
15	食生活に関連した発表	食生活に関連したトピックスについて院生自らが発表する。

平成29年度

<b>科目名</b>	科学的食生活実験	<b>対象 単位数 必選</b>		
<b>担当教員</b>	広井 勝			
<b>開講期</b>	前期			
<b>受講資格</b>			<b>成績評価 方法</b>	

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容

科目名	食品衛生学特論		対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 2単位 選択
担当教員	諸岡 信久			
開講期	後期			
授業概要	食品による危害が人の健康障害の原因となっている。健康障害には食物アレルギーや食中毒の様な急性障害と、発がんなどの慢性障害が種々の疾病統計上の上位に位置している。食品衛生学特論では食品の危害因子を微生物学、化学、放射線科学の基礎知識と人体の生化学的反応から、疾病に至る経緯を中毒学的に学ぶ。			
達成目標	食品による危害が人の健康障害の原因となっている。健康障害には食物アレルギーや食中毒の様な急性障害と、発がんなどの慢性障害が種々の疾病統計上の上位に位置している。食品衛生学特論では食品の危害因子を微生物学、化学、放射線科学の基礎知識と人体の生化学的反応から、疾病に至る経緯を中毒学的に学ぶ。			
受講資格	なし	成績評価 方法	レポート100点	
教科書	資料配布			
参考書	「食安全の科学」菅家祐輔・坂本義彦、三共出版、印刷資料			
学生への要望	食品の安全性に関する学問は自らの健康生活にも役立つものである。知った知識や考え方をより検討して、食の安全性を進めてもらいたい。			
オフィスタイム	月から金 Vコマ目 公衆衛生学研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	食品中の毒素の挙動	食物連鎖による毒素の濃縮、脂溶性毒素の生物濃縮、毒素の生体内分布・解毒機構・毒素の水溶性増加によるの排泄
2	毒素のリスクアナリシス	一般毒性、特に急性毒性と亜急性・慢性毒性、投与経路の違いによる毒性強度の変化 化学物質の用量と生体の反応曲線：NOAEL, NOEL, ADI, TDI, 閾値、最小中毒量、最小致死量、LD50 (mg/kg)
3	急性毒作用-1：食物アレルギー	血液幹細胞とT細胞、B細胞、マクロファージ、血小板、赤血球などの分化 免疫メカニズム：胸腺とT細胞、T細胞とB細胞、イムノグロブリンIgEと肥満細胞 アレルギー：アレルギーとハプテン 食物抗原：アレルギーとしてのタンパク質の性質 アレルギー症状やアナフラキシー
4	急性毒作用-2：細菌性食中毒	毒素型食中毒の細菌毒素の性状や作用機序：ボツリヌス菌、黄色ブドウ球菌、セレウス菌 感染毒素型食中毒の細菌毒素の性状や作用機序：腸炎ビブリオ、ウェルシュ菌、腸管出血性大腸菌、コレラ菌
5	急性毒作用-3：自然毒	自然毒（動物由来）：ふぐ毒テトロドトキシンの作用機構、シガテラのマイトトキシンの作用機構、貝毒のサキントキシンによる麻痺性貝毒やゴニオトキシンによる下痢性貝毒 自然毒（植物由来）：野菜アルカロイドや豆類の青酸配糖体、山野草の神経毒性化合物、きのこ毒
6	慢性毒作用-1：農薬	日本の農薬取締法と農薬の取り扱い方、農薬の人体影響 残留農薬と1日許容摂取量（ADI）、ポジティブリスト制
7	慢性毒作用-2：抗生物質	抗生物質：動物用医薬品と飼料添加物 抗生物質の食品残留による影響：薬剤耐性菌 薬剤耐性機構
8	変異原と発がん性	発がんメカニズム：イニシエーション、プロモーション、プログレッション 変異原性物質や発がん性物質の探索方法：変異原性試験や遺伝毒性試験、染色体異常試験、小核試験、コメットアッセイ、長期発がん試験などについて
9	食品と発がん	食品中の発がん前駆物質：亜硝酸によるN-ニトロソ化合物やプロモーター 穀類のカビ汚染による発がん性マイコトキシン：アフラトキシンB1、ルテオスカイリンなど 食品成分から生成する発がん性物質：高度不飽和脂肪酸の過酸化脂質、アミノ酸や糖の熱分解物 食品残留性の多感芳香族化合物の酸化体など
10	食品添加物	指定添加物と既存添加物 食品添加物のLD50値 食品添加物の推定摂取量：マーケットバスケット方式など 既存添加物から削除されたアカネ色素 食品添加物と医薬品や農薬との違い
11	活性酸素と過酸化脂質	活性酸素の発生と分解酵素、ラジカルと非ラジカル 生体による活性酸素の生成と分解 過酸化脂質とオータコイド：シクロオキシゲナーゼとアスピリン
12	食品と放射能	放射能の単位 食品への放射線照射と必要な線量 人体に対する放射線の影響
13	遺伝子組み換え食品と牛海綿状脳症	細菌による殺虫タンパク質のDNAを作物の遺伝子に組み込んだ遺伝子操作作物 非選択的除草を大量に散布した土壌で増殖した細菌の農業分解核外遺伝子（プラスミド）を作物の遺伝子に組み込んだ遺伝子操作作物 これらの原理と人体毒性に関する問題点と対策方法：大量に輸入されている遺伝子操作大豆はどこへ行ったのか 遺伝子操作作物使用の表示義務について
14	HACCP	HA + CCP 危害分析と監視の原理：食品原材料はその食品を危害する微生物などによって汚染されていると前提にする。その危害を完全に除去する方法を必ず食品加工工程に入れる。 クラス：クラスA食品は免疫弱者のための食品、危害の多い食品はクラスB（生食）～F（食べる前に加熱しない食品）。 カテゴリ：クラスA～Fまでの得点を加算した結果でカテゴリが決まる。カテゴリVIIは免疫弱者の食品、カテゴリIは煎餅やインスタントコーヒーなど乾物である。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	特定保健用食品	医薬品と健康機能食品と一般食品の違い：特定保健用食品（個別認可型・規格基準型）・栄養機能食品（規格基準型） 特定保健用食品（疾病リスク低減表示＝医学的・栄養学的に確立している）：Ca（若い女性の骨粗しょう症予防）、葉酸（若い女性の葉酸摂取量と神経閉鎖障害を持つ子供の出生リスクの関係） ヘルシンキ宣言の遵守

科目名	調理科学特論		対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 2単位 選択/大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 2年 2単位 選択
担当教員	鍛野 信子			
開講期	前期			
授業概要	「調理科学」は、食の分野を多角的に体系化を図る学問である。食品を選択する行為には、加工や調理に加えて、人間の心理や生理、生活や嗜好、その他多くの背景と動機があり、目的にあった確かな食品選択が求められている。ここでは、「調理科学」の中でも心理的要因が問われる「おいしさの科学」について論文や事例により読み解く。併せて、授業開始時（毎回10～15分程度）に食物や栄養についての英文を購読する。			
達成目標	官能評価の事例を読み解くことにより、科学的側面から「おいしさ」について「論ずる力」を養うこと、および、英文購読により食物や栄養について外交人との「コミュニケーションツール」として活用できることを目標とする。			
受講資格	大学院 人間生活学研究科 修士課程専攻生	成績評価 方法	授業中のディスカッションの状況（20点）とレポート（80点）で100点とします。	
教科書	「調理と食品の官能評価」：松本仲子、建帛社（2,000円+税8%） 「PRACTICAL ENGLISH FOR DIETITIANS REVISED EDITION」：小川成子、山本厚子、LAURA NIHAN、学研書院（1,188円+税8%）			
参考書	「続 おいしさを測る－食品開発と官能評価」：古川秀子、上田玲子、幸書房			
学生への要望	①日々の生活の中で、常に食品に関心を持ってください。 ②食べ物を五感で味わう習慣をつけてください。 ③食品表示、食器、食空間、食文化などにも関心を持ってください。			
オフィスタイム	月曜日4時限および木曜日5時限のNo.2食品学研究室			
自学自習	予習：毎回、次週に向けた予習内容を指示しますので、そのことについて事前学習をして下さい（1時間）。 復習：その日の授業内容についてノート整理をしてください（1時間）。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業の目的	食の業務に携わるためには、種々の食品についての深い知識と、食品の品質を見抜く技能が必要とされる。食品の評価法には、化学的、物理的評価法はもちろんのこと、官能的な評価法があることをまず理解する。「調理科学特論」では、調理や加工に留まることなく、食品の生産、流通、消費のシステムの中で、食品の品質を評価するためのいくつかの方法を解説する。
2	食品品質の概要	食品が食品たり得るためには安全でなければならない。さらに、食品が備えているその他の性質である栄養性、嗜好性、生体調節機能性、商品性なども食品の品質を決定づける重要な要素であることを理解する。
3	食品を見る～色・形	1番目に、目で食品の品質を判断する。ここでは、食品の外観で最も影響力の大きい色について、色と香り、色と味、色と食欲、色とおいしさの関係を理解する。また、食器や盛り付けによる献立の彩り、および食空間の重要性についても理解する。
4	食品を嗅ぐ～匂い	2番目に、鼻で食品の品質を判断する。ここでは、「香り・匂い・臭い」の違いを理解する。あわせて、匂いは系統的に分類できないこと、嗅覚は疲労しやすいこと、温度と匂いの関係、食欲と匂いの関係などについても理解する。
5	食品を味わう～味	3番目に、口で食品の品質を判断する。狭義の味には、口腔内で感じる味、および外観、香り、テクスチャー、音など通して感じる味、広義の味には季節や食環境、感情などの心情を含めた味があることを理解する。あわせて、味の生理的現象や食べ物の相性についても理解する。
6	食品を噛む・触れる～テクスチャー	4番目に、口中の歯や舌で触れて食品の品質を判断する。口中で感じる感覚（テクスチャー）の尺度、テクスチャーとおいしさ、調理とテクスチャーの関係について理解する。あわせて、おいしい温度、心身で感じる温度についても理解する。
7	食品を聞く～音	食品の品質の判断には、耳で食品の品質を判断する場合がある。ここでは、音とおいしさのかかわりについて、特に心地良い食空間をもたらす音楽の効果について理解する。
8	食品のおいしさを決める～脳	おいしさにかかわる要因には、身体の状態や五感による生理的おいしさに加え、食習慣や食文化などの経験、蓄積された情報、気候や風土などの環境による心理的おいしさがあることを理解する。
9	事例①：高齢者向けの商品開発と官能評価	高齢者向けの食品開発に当たっては、高齢者の摂食機能を考慮する必要がある。ここでは、口腔の形態と食塊の移動のメカニズムを確認し、高齢者の摂食中の問題点、唾液の性状および食肉の硬さと咀嚼の関係から若年者と高齢者の違いを理解する。
10	事例②：コンビニ等向けの商品開発と官能評価	コンビニおよびチェーンストアの店頭に並ぶ弁当、おにぎり、惣菜などは2000種類にも及ぶといわれている。他社との差別化を図った多くの新商品を生み出すために、官能評価は不可欠な手法であることを理解する。
11	事例③：飲料を評価する「のどごし感」の測定方法と官能検査	「のどごし感」は、ビール類の嗜好性と高い相関があるといわれている。ここでは、咽頭部表面筋電図周波数解析を用いた「のどごし感」の測定方法の概要を理解する。
12	事例④：「味の素」の商品開発と官能評価	「味の素」は日本人が発見した「うま味」によって、この100年間マーケットを世界中の100か国以上に広められ、グローバルな商品となった。官能評価の手法をいち早く実践して商品開発を行ってきた味の素株式会社のたゆまぬ努力を理解する。
13	事例⑤：最近の商品開発と官能評価の事例（その1）	最近の商品開発と官能評価の事例を学術雑誌等からいくつか取り上げ解説する。
14	事例⑥：商品開発と官能評価の事例（その2）	最近の商品開発と官能評価の事例を学術雑誌等からいくつか取り上げ解説する。
15	授業の総括	2回から14回の授業内容について討論を行う。

平成29年度

<b>科目名</b>	臨床栄養学特論	<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	藤原 建樹		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	生活習慣病の成因・治療・予防について栄養学の立場から分析・理解する。とくに心血管疾患に重点をおく。国際誌に掲載されたインパクトの高い英語論文を輪読する。		
<b>達成目標</b>	英語原著論の大意を理解できるようになる。		
<b>受講資格</b>	大学院修士課程 1年	<b>成績評価 方法</b>	授業への参加状況 (50%) レポート (50%)
<b>教科書</b>	なし		
<b>参考書</b>	なし		
<b>学生への要望</b>	英語論文の輪読を行う。基礎となる英文医学用語の習得に努めること。		
<b>オフィスタイム</b>	火曜日 8:30~10:20 水曜日 13:00~16:00 木曜日 8:30-10:20 臨床医学研究室		
<b>自学自習</b>	輪読する論文をあらかじめ読んでおく。		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	非感染性疾患とその予防	平均寿命と健康寿命 人口動態の変遷 非感染性疾患 (NCD) の概念と位置づけ 高血圧とその予防 高血圧と栄養学
2	英文講読 1	Miura K, Nagai M, Ohkubo T. Epidemiology of hypertension in Japan: where are we now? Circ J. 2013;77:2226-31.
3	英文講読 2	Miura K, Nagai M, Ohkubo T. Epidemiology of hypertension in Japan: where are we now? Circ J. 2013;77:2226-31.
4	英文講読 3	Miura K, Nagai M, Ohkubo T. Epidemiology of hypertension in Japan: where are we now? Circ J. 2013;77:2226-31. Christensen K, et al.
5	英文講読 4	Miura K, Nagai M, Ohkubo T. Epidemiology of hypertension in Japan: where are we now? Circ J. 2013;77:2226-31. Christensen K, et al.
6	英文講読 5	He FJ, Li J, Macgregor GA. Effect of longer term modest salt reduction on blood pressure: Cochrane systematic review and meta-analysis of randomised trials. BMJ. 2013;346:f1325.
7	英文講読 6	He FJ, Li J, Macgregor GA. Effect of longer term modest salt reduction on blood pressure: Cochrane systematic review and meta-analysis of randomised trials. BMJ. 2013;346:f1325.
8	英文講読 7	He FJ, Li J, Macgregor GA. Effect of longer term modest salt reduction on blood pressure: Cochrane systematic review and meta-analysis of randomised trials. BMJ. 2013;346:f1325.

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
9	英文講読 8	He FJ, Li J, Macgregor GA. Effect of longer term modest salt reduction on blood pressure: Cochrane systematic review and meta-analysis of randomised trials. BMJ. 2013;346:f1325.
10	英文講読 9	Kanauchi M, Kanauchi K. Diet quality and adherence to a healthy diet in Japanese male workers with untreated hypertension. BMJ Open. 2015;5:e008404.
11	英文講読 10	Kanauchi M, Kanauchi K. Diet quality and adherence to a healthy diet in Japanese male workers with untreated hypertension. BMJ Open. 2015;5:e008404.
12	英文講読 11	Kanauchi M, Kanauchi K. Diet quality and adherence to a healthy diet in Japanese male workers with untreated hypertension. BMJ Open. 2015;5:e008404.
13	英文講読 12	注目されている最新の研究、論文未定
14	英文講読 13	注目されている最新の研究、論文未定
15	まとめ	総合討論 レポート提出



平成29年度

<b>科目名</b>	栄養教育特論	<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	瀬戸 美江		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	栄養教育に関する論文作成の方法論を理解できるようになる。		
<b>達成目標</b>	栄養教育に関する論文作成の方法論を理解できるようになる。		
<b>受講資格</b>	修士課程 1年生	<b>成績評価 方法</b>	平常点：60点 論文：40点
<b>教科書</b>	必要に応じてプリントを配布する。		
<b>参考書</b>	特に指定しない。		
<b>学生への要望</b>	積極的に授業に臨むこと。		
<b>オフィスタイム</b>	授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方や評価方法の説明
2	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	研究テーマについて考える。
3	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	文献・資料を集め読みこむ。
4	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	文献・資料を集め読みこむ。
5	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	調査方法を学ぶ。
6	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	アンケート調査表を作成する。
7	文献・資料を集め読みこ	アンケート調査を行う。
8	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	アンケート調査結果の集計を行う。
9	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	統計処理について学ぶ。
10	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	統計処理を行う。
11	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	論文の書き方を学び、文章をまとめる。
12	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	論文の書き方を学び、文章をまとめる。
13	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	プレゼンテーションの方法について学ぶ。
14	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	プレゼンテーション
15	まとめ	まとめ

<b>科目名</b>	生活統計学演習		<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	紺野 信弘			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	<p>統計学とは、集団の現象を数値で表現し、適切な方法を通じて、「その集団」における全体的規則性をはっきりさせようとする学問である。本演習では、広大な関連分野をもつ統計学の中から、とくに栄養統計学を中心に取り上げ、生活統計学の標準的方法を学び、(栄養)調査や実験をおこない、その結果をまとめ、研究会や論文として発表する際に要求される統計処理法に十分対処できる知識や能力を得ることを目的としている。</p> <p>紺野、15コマ担当</p>			
<b>達成目標</b>	<p>栄養統計学を中心に取り上げ、(栄養)調査や実験をおこない、その結果をまとめ、研究会や論文として発表する際に要求される統計処理法に対処できる知識や能力を得ることを目的としている。</p>			
<b>受講資格</b>	大学院修士課程の院生	<b>成績評価 方法</b>	レポート提出70点、統計演習30点 で100点満点	
<b>教科書</b>	やさしい栄養・生活統計学(南江堂)			
<b>参考書</b>	<p>基礎医学統計学改訂第6版(南江堂) 健康・スポーツ科学のためのSPSS による統計解析入門(杏林書院)</p>			
<b>学生への要望</b>	統計学は難解であると敬遠せず、調査や実験には欠かせないものであると理解して勉強してほしい。			
<b>オフィスタイム</b>	16時10分以降研究室にて面談可能です。			
<b>自学自習</b>	原著論文を読むとき、その論文に使用されている統計解析法に注意して読むこと。それが予習、復習になります。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	栄養・生活統計とは	栄養・生活統計の必要性について概説する。統計学、とくに栄養・生活統計学を学ぶ第一の理由は、客観的に大局的なものを見方を身につけるということである。個人的調査や研究はもとより、厚生労働省やWHOをはじめとする各種機関から発表される栄養・生活統計資料の解釈、理解にも統計学の知識は有用である。
2	統計ソフトの入力準備	統計学に汎用されている、基本ソフトである、エクセル(エクセル統計)とIBM-spssの入力準備を行う。
3	記述統計 I	尺度と度数は統計学のもっとも基本的な事項である。量的データ、質的データ、度数分布表、ヒストグラム等について学ぶ。
4	記述統計 II	度数多角形、代表値、算術平均、幾何平均、中央値、最頻値等について学ぶ。
5	記述統計 III	散布度、標準偏差、偏差平方和について学ぶ。特に標準偏差は有意差検定の意味を理解するうえで基本となる考え方なので、サンプルを用いて計算を行い理解を深める。
6	相関と回帰	相関係数、回帰直線、相関関係と因果関係の差異について学ぶ。
7	確率と分布	母集団、標本、推定、検定のさいに利用される正規分布とその特性を中心に学習する。自然界で観察される多くのものの分布は平均値に近いものが多く両端が少なくなっている。これを正規分布という。
8	統計的推測	母集団と標本抽出という考え方は統計学、栄養学、生活統計学の基本である。そして、母平均、母相関係数などの推定は、実際の場面で利用されることが多い。標本抽出のおおもととなる統計集団を母集団という。標本調査とは母集団から抽出された標本について調査することである。標本の抽出法について学ぶ。母平均の区間推定とその意義について学ぶ。
9	仮説検定 I	パラメトリック仮説検定の基本的考え方を学ぶ。パラメトリックとは母数(平均、標準偏差など分布を規定するもの)があるということである。仮説検定は統計学、栄養・生活統計学の中で最も重要な分野である。帰無仮説、有意水準(危険率)、棄却、両側検定などの用語の意味について学ぶ。
10	仮説検定 II	パラメトリック仮説検定の2回目として、平均値の差の検定(対応のある場合、対応のない場合)、比率の差の検定( $\chi^2$ 乗検定)について学ぶ。
11	仮説検定 III	パラメトリック仮説検定の3回目。栄養学や家政学の実務、研究においても3群、4群以上の平均値の同時比較をしたい場合がある。ここでは3群以上の平均値の同時比較ができる一元配置分散分析について学習する。たとえば4地区でビタミンC摂取量を調査し、地区により摂取量に差がでるかどうかを検定する場合などに用いられる。
12	仮説検定 IV	ノンパラメトリック仮説検定。母集団の分布型について、仮定を設けない手法である。ここでは独立性の検定とクラスカル・ウォリス検定について学ぶ。データが順序尺度の場合、より効率のよい検定法としてクラスカル・ウォリス検定法がある。
13	疫学・保健統計 I	疫学は集団の健康レベル(疾病現象)を測定し、その原因を解明するとともに予防対策を立案し、その効果を評価する、というすべての課程であると考えられている。疫学調査では各種の数値指標の計算法の理解と習熟が要求されるが、今回学んだ生活統計学が実際どのような場面に利用されているかを学習する。クロス集計におけるカイニ乗検定の利用などを学ぶ。
14	疫学・保健統計 II	保健統計では、人口統計、人口動態統計、人口動態統計、粗死亡率、年齢調整死亡率などさまざまな(保健統計)用語が使用される。ここではこれらの用語を解説しながら保健統計の理解を深める。
15	まとめ	栄養・生活統計学演習のまとめとして「実際の例題」を解きながらこれまで学んだ統計用語の理解を深める。

平成29年度

科目名	科学的住生活特論	対象 単位数 必修	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 2単位 必修	
担当教員	山形 敏明			
開講期	前期			
授業概要	住生活に時間の概念や動線計画、機能分類等の科学的分析法が導入されたのは、戦後のことです。その主目的は、女性の家事労働軽減にありましたが、今日、家庭電化製品等により、家事に要する時間は大幅に短縮されました。一方、この戦後の大きな目的がごく短期間に達せられたために、住生活の科学的分析法は不十分のまま、という好ましくない結果をもたらしました。これからの住生活は、住まいが社会における原点、という普遍性を踏まえた上で、医学や環境学、色彩学等のあらゆる学問と有機的に連携しながら向上させなければなりません。本講義は、住生活における科学的分析法の成り立ち、及び次代に要求される手法を学ぶことを目的とします。			
達成目標	住生活における科学的分析法の成り立ちを理解し、研究内容に適した分析手法を利用できるようになること。			
受講資格	修士課程1年	成績評価 方法	レポート70%、プレゼンテーション30%	
教科書	適宜プリント及び資料配付			
参考書	「今和次郎と現考学」河出書房新社 「ダ・インク・キッチはこうして誕生した」技報堂出版			
学生への要望	新聞等のニュースから、現代の住生活及び住まいにおける問題点を考えて下さい。			
オフィスタイム	月曜日12:50～14:20・14:30～16:00 住居学研究室			
自学自習	予習 参考資料をもとに当日の授業内容を確認しておく。(1時間) 復習 授業内容の復習・ノート整理(1時間)			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	講義のガイダンス	今後の講義の目的や内容について説明します。
2	住居論についての考察	わが国の戦後の住まいを方向付けた既往研究(今和次郎や西山卯三他)について、考察します。同時にこれらが、科学的検証に基づいて行われたものであることを確認します。
3	住まい計画における空間比	住宅のモジュールについて理解した上で、住まいにおける各室(各機能)がどのような構成(面積)比で成り立っているか、過去の論と照らしながら考えます。
4	空間分析	まず、空間分析の目的を学びます。次に、空間分析を行う場合、研究の視点をどこに置くか、視点の相違による分析方法の違いについて、事例を用いて考えます。さらに、住宅雑誌等から幾つかの事例を選択調査し、空間分析の手法を実際に学びます。
5	空間分析の手法Ⅰ	前講義に引き続き、住宅雑誌等から幾つかの事例を選択調査し、空間分析の手法を実際に学びます。
6	空間分析の手法Ⅱ	前講義に引き続き、住宅雑誌等から幾つかの事例を選択調査し、空間分析の手法を実際に学びます。
7	空間分析の手法Ⅲ	前講義に引き続き、住宅雑誌等から幾つかの事例を選択調査し、空間分析の手法を実際に学びます。これらをデータとしてまとめ、レポートを作成します。
8	子ども室の在り方Ⅰ	戦後の住まいにおいて、最も力点が置かれた空間として子ども室があげられます。しかし、近年、幾つかの事件から問題点が指摘されています。本講義では、問題の根底を考えながら、年齢、色彩、発達心理、空間構成、空間認知等の多方面からその在り方を考察します。
9	子ども室の在り方Ⅱ	前講義に引き続き、子どもの年齢、色彩、発達心理、空間構成、空間認知等の多方面から子ども室の在り方を考察します。
10	夫婦室の在り方	戦後の住まいにおいて、力点が置かれた子ども室に比し、夫婦室は軽視されがちでした。本講義では、その重要性について考察します。また、住まいに対する意識は、男女によって著しく異なる、とされていますが、住宅設計及びジェンダーフリーの視点から、男女双方にとっての住まいの理想について考えます。
11	台所の行方	戦後の台所は食物調達のための機能から、食事空間の一体化という発展を遂げてきましたが、近年は生活の変化から、両者(食物調達、食事)の機能とも消滅する傾向が報告されています。このことは、現在の生活のみならず人間生活の歴史において、大きな問題であるといえます。これらのことを踏まえて、今後の台所について考察します。
12	住宅調査におけるアンケート作成Ⅰ	住宅調査におけるさまざまなアンケート調査について学び、実際に目的別にアンケートを作成します。
13	住宅調査におけるアンケート作成Ⅱ	前講義に引き続き、住宅調査におけるさまざまなアンケート調査について学び、実際に目的別にアンケートを作成します。
14	住宅調査におけるアンケート集計	前講義で作成したアンケートの集計を通して、住宅調査における集計方法及び統計について学びます。
15	まとめ	これまでの講義を総括します。

平成29年度

<b>科目名</b>	科学的住生活演習	<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	山形 敏明		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	本演習では、科学的住生活特論で修得した住生活における科学的分析法と次々に即した手法を演習する。事例を通し住生活における今日の問題点及びその背景を探り、それらの解決法をゼミ形式で討論しながら多角的に追求する。し、その結果を空間表現または図式化する事を達成目標とする。		
<b>達成目標</b>	本演習で修得した手法を十分理解するとともに活用できるようになること。また、その結果を空間表現または図式化する事ができるよ		
<b>受講資格</b>	修士課程1年	<b>成績評価 方法</b>	定期的に課すレポートの評価60%、講義への事前学習と討論内容についての評価40%
<b>教科書</b>	使用しない。		
<b>参考書</b>	適宜、紹介する。		
<b>学生への要望</b>	関連の手法を用いた既往論文について十分な予習を行うこと。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日12:50~14:20、14:20~16:00 住居学研究室		
<b>自学自習</b>	事前学習：当日の内容を資料等をもとに確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえて、事例を通した分析を再検証すること（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	本演習の進め方及び概論を講義し、導引とする。
2	分析手法の検証（1）	日本建築学会等の文献を基に、科学的住生活特論で学修した科学的分析手法の複数の事例を概観する。
3	分析手法の検証（2）	（1）での事例について継続して分析する。
4	分析手法の検証（3）	（1）（2）で得た知見について討論する。
5	分析手法の検証（4）	レポートについてのプレゼンテーションを行う。
6	分析手法の研究への応用	各自の研究概要についてプレゼンテーションし、2～5回までの講義の中で修得した分析手法をそれらの研究内容に応用することが可能であるか討論する。
7	分析手法に基づく研究計画の検討	可能とされる分析手法を用いて研究計画を検討し、計画の妥当性を評価する。
8	住生活における建築防災上の問題点	今日的住生活における建築防災上の問題点について討論する。
9	住生活における建築防災上の対策	前講義で討論された問題点について、その対策の実情と社会学的背景を踏まえて検討されるべき対策について考察する。
10	住生活における安全のための人間工学（1）	住生活における安全について人間工学的視点から検証する。人間の防災力と群集密度、過緊張と情報処理について科学的分析を試みる。
11	住生活における安全のための人間工学（2）	安全性能の評価について、イメージ評価、被害想定評価及び線形関数評価の問題演習を行う。
12	避難計画における行動特性	危急時における人間の行動特性について解析し、避難計画の考え方について討論する。
13	避難流動の解析	避難行動を予測する避難計算の問題演習を行う。
14	住宅設計の留意点	これまでの講義で修得した内容を元に、住宅設計上の留意点について整理検討する。
15	まとめ	各自レポートのプレゼンテーションを行う。 本講座の総括をする。

科目名	科学的住生活実験	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学専攻 1年 1単位 選択
担当教員	長田 城治		
開講期	前期		
授業概要	本授業は、科学的住生活特論および科学的樹生活実験で習得した住生活における科学的な分析方法を用い、住生活に関する各種実験・実習を行うことで実証的に住生活を理解する授業である。自身が考える快適な住生活や居心地の良い住まいはどのようなものかを明確にし、住まいに対する利用者の心情を科学的に数値化し、解決する方策を実験を通して学修する。		
達成目標	①実験・実験の準備や結果の考察をまとめることができたか。 ②安全に実験を行うことが出来たか。 ③快適な住生活や居心地の良い住まいを数値化できたか。		
受講資格	修士課程2年	成績評価 方法	①各種実験・実習に関するレポート (80%) ②平常点 (20%)
教科書	特になし。 必要に応じてプリントを配布		
参考書	必要に応じてプリントを配布		
学生への要望	安全に実験を行い、レポートは必ず期日までに提出すること。 自身の住生活に関する不満や問題点を把握し、それらを改善するための方策を考えること。		
オフィスタイム	月曜日12:50~14:20 木曜日8:50~10:20 創学館4F No. 3研究室		
自学自習	予習：実験内容や方法などを実験ノートにまとめること。(1時間) 復習：実験結果を整理し、各種データを参考に考察をまとめること。(1時間)		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	本授業の目的や実験・実習の概要について学びます。
2	【実験1】騒音レベルの調査・実験	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。
3	【実験1】騒音レベルの調査・実験	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。
4	【実験1】騒音レベルの調査・実験	騒音計を用いて、学内の騒音レベルを測定する。
5	【実験1】騒音レベルの調査・実験	騒音計を用いて、学外の騒音レベルを測定する。
6	【実験1】騒音レベルの調査・実験	騒音計を用いて、学外の騒音レベルを測定する。
7	【実験1】騒音レベルの調査・実験	調査・実験結果を基に、快適な教室環境を確保するために必要な手段を考察する。
8	【実験1】騒音レベルの調査・実験	調査・実験結果を基に、快適な教室環境を確保するために必要な手段を考察する。
9	【実験2】室内の温熱環境実験	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。
10	【実験2】室内の温熱環境実験	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。
11	【実験2】室内の温熱環境実験	夏涼しい住宅に関する工夫を住宅模型を用いて実験する。
12	【実験2】室内の温熱環境実験	夏涼しい住宅に関する工夫を住宅模型を用いて実験する。
13	【実験2】室内の温熱環境実験	冬暖かい住宅に関する工夫を住宅模型を用いて実験する。
14	【実験2】室内の温熱環境実験	冬暖かい住宅に関する工夫を住宅模型を用いて実験する。
15	【実験2】室内の温熱環境実験	調査・実験結果を基に、快適な住宅環境を確保するために必要な手段を考察する
16	【実験2】室内の温熱環境実験	調査・実験結果を基に、快適な住宅環境を確保するために必要な手段を考察する
17	【実験3】室内換気量実験	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。
18	【実験3】室内換気量実験	室内換気について住宅模型を用いて実験する。 換気方式の種類ごとに測定し、空気の流れや換気量計算を行う。
19	【実験3】室内換気量実験	室内換気について住宅模型を用いて実験する。 換気方式の種類ごとに測定し、空気の流れや換気量計算を行う。
20	【実験3】室内換気量実験	室内換気について住宅模型を用いて実験する。 換気方式の種類ごとに測定し、空気の流れや換気量計算を行う。
21	【実験3】室内換気量実験	調査・実験結果を基に、快適な住宅環境を確保するために必要な手段を考察する
22	【実験3】室内換気量実験	調査・実験結果を基に、快適な住宅環境を確保するために必要な手段を考察する
23	【実験4】室内照度調査	調査・実験結果を基に、快適な住宅環境を確保するために必要な手段を考察する
24	【実験4】室内照度調査	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。
25	【実験4】室内照度調査	照度計を用いて教室環境の明るさを評価する。
26	【実験4】室内照度調査	照度計を用いて教室環境の明るさを評価する。
27	【実験4】室内照度調査	照度計を用いて教室環境の明るさを評価する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
28	【実験4】室内照度調査	調査結果を基に、快適な教室環境を確保するために必要な手段を考察する。
29	まとめ	各種調査・実験で得られた成果を考察し、快適な住環境および居心地の良い住まいを提案する。

平成29年度

<b>科目名</b>	生活環境特論 I		<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	諸岡 信久			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	生活習慣病が国民の健康に重要な問題となってきた。国民の死亡率一位は悪性新生物であり、部位別では肺の疾患が高齢者の直接の死亡原因になっている。 この講義では、健康日本21で問題となる健康障害に対する対策を検討する。 それら病原因子である化学物質や病原微生物・ウイルスの生活環境中での分析結果の文献調査資料に基づき、その対策を考察する。 対象とする生活環境は、水・大気・土壌・食品・嗜好品などを取り扱う。 これら病原による発症機構についても学び、生活環境の評価方法を検討して行くことを目的とする。			
<b>達成目標</b>	生活習慣病が国民の健康に重要な問題となってきた。国民の死亡率一位は悪性新生物であり、部位別では肺の疾患が高齢者の直接の死亡原因になっている。 この講義では、健康日本21で問題となる健康障害に対する対策を検討する。 それら病原因子である化学物質や病原微生物・ウイルスの生活環境中での分析結果の文献調査資料に基づき、その対策を考察する。 対象とする生活環境は、水・大気・土壌・食品・嗜好品などを取り扱う。 これら病原による発症機構についても学び、生活環境の評価方法を検討して行くことを目的とする。			
<b>受講資格</b>	大学院修士課程の学生	<b>成績評価 方法</b>	授業における「気づき」「探究心」「説明力」とレポートによる最終試験 ①レポート100点	
<b>教科書</b>	特にない。 ただし、資料や原著の活用			
<b>学生への要望</b>	人間は環境からのストレスに影響を受けやすい集団が存在する。具体的には発達段階の子供であったり、高齢者、疾病の罹患患者などである。 幼児教育・栄養士・福祉士等はこれら免疫弱者を対象とする職能である。いわば環境因子に影響を受けやすい人間集団の特性を科学的に理解しておく必要がある。 環境因子や疾病については学生の希望を考慮する。			
<b>オフィスタイム</b>	月から金 5コマ目 公衆衛生学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	この科目を受講した理由と学びたい分野について説明していただく。 テーマを個人的に設定する。テーマは病原菌(B)と毒性物質(C)を各1つ設定する。 授業計画を立てる。 資料や原著を検討するために図書館を調査する。
2	テーマ(B)の基礎知識-1	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 テーマに関する概要：歴史経緯、危害
3	テーマ(B)の基礎知識-2	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：環境分布、曝露条件、感染経路
4	テーマ(B)の基礎知識-3	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：病気の自然史など
5	テーマ(B)の基礎知識-4	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：検出方法及び毒性機構
6	テーマ(B)の基礎知識-5	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：生体の反応
7	テーマ(C)の基礎知識-1	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 テーマに関する概要：歴史経緯、危害
8	テーマ(C)の基礎知識-2	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：環境分布、曝露条件、感染経路
9	テーマ(C)の基礎知識-3	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：病気の自然史など
10	テーマ(C)の基礎知識-4	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：検出方法及び毒性機構
11	テーマ(C)の基礎知識-5	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：生体の反応
12	生活環境中の危害因子の分析方法と曝露条件	仮説に基づいた病原因子と疾病で、危害因子の分析方法と曝露状況に関する報告を調べる。 論文の要旨や実験データをまとめて、疾病の原因としての仮説を立てる。
13	危害因子の感染経路と生体内挙動と排泄経路	危害因子の曝露条件だけでなく、感染経路、生体内挙動や排泄経路など疾病の症状を説明しているか調べる。 罹患者の地域的分布などが危害因子の挙動に一致しているか検討する。
14	危害因子による発症機構	発症機構に関する報告を調査する。その発症機構を傷害すると疾病が抑制されるか検討した報告を調査する。
15	生活環境中の危害因子の除去方法	生活環境中の危害因子の除去する事によって、疾病が抑制されることを確認して、危害因子の環境中での閾値を調べる。その基準値が定められた場所で、その疾病の発生頻度が抑制されているか検討する。

平成29年度

<b>科目名</b>	食物栄養学特論	<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科博士課程専攻 1年 2単位 選択/大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	佐久間 保一		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	住環境における安全と危険性を分析する。 住宅及び住環境におけるバリアフリー、ユニバーサルデザインの必要性を実際の建築物と法令を通して学ぶ。		
<b>達成目標</b>	住環境における安全と危険性を分析する。 住宅及び住環境におけるバリアフリー、ユニバーサルデザインの必要性を実際の建築物と法令を通して学ぶ。		
<b>受講資格</b>	大学院修士課程	<b>成績評価 方法</b>	課題の提出と出席状況による
<b>教科書</b>	人にやさしいまちづくり条例 建築・都市のユニバーサルデザイン		
<b>学生への要望</b>	建築環境におけるユニバーサルデザインの必要性を確認する。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1		授業ガイダンス、建築環境におけるユニバーサルデザインの現状。
2		住宅におけるバリアフリーと危険の予防。
3		住環境におけるシックハウスの予防と実際。
4		生活環境とユニバーサルデザイン
5		生活環境に求められる要素
6		バリアフリーデザインからユニバーサルデザインへ
7		多様な属性と環境
8		ユニバーサルデザインのプロセス
9		ユニバーサルデザインの手法
10		外部空間のユニバーサルデザイン
11		公共建築のユニバーサルデザイン
12		居住空間のユニバーサルデザイン
13		人にやさしい街づくり条例
14		①実際の建築図面においてユニバーサルデザインを取り入れる演習
15		②実際の建築図面においてユニバーサルデザインを取り入れる演習



平成29年度

<b>科目名</b>	建築設計特論	<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	山形 敏明		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	建築分野における各種団体の業務や役割について学び、広く建築界の仕組みを知る。また、プロポーザルやコンペティションの事例研究を通して、そのプロセスや社会的意義、コンセプトの立案手法、プレゼンテーションテクニックを学ぶ。なお、この科目は一級建築士受験に係る大学院における実務経験の要件となるインターンシップ科目である。		
<b>達成目標</b>	当講義内容を理解し、建築設計事務所等で業務に携わるための実践的手法及び技術者として倫理観を修得していること。		
<b>受講資格</b>	修士1年	<b>成績評価 方法</b>	レポート70%、プレゼンテーション30%の割合で評価する。
<b>教科書</b>	適宜、資料を配布する。		
<b>参考書</b>	適宜紹介する。		
<b>学生への要望</b>	今日の建築界の仕組みを把握するために、建設関連の新聞記事等に親しむこと。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日12:50~14:20、14:30~16:00 住居学研究室		
<b>自学自習</b>	事前学習：当日の内容を配付資料をもとに確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえて、紹介された参考書等を用いてノート整理を行うこと（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業ガイダンス	授業のガイダンス、建築分野における諸団体の概要について解説する。
2	建築士の責務	建築士の責務及び、日本建築士会の業務及び役割について講義する。
3	日本建築学会について	建築関連業務に多くの基準を策定している日本建築学会の学術的位置づけについて解説する。
4	日本建築家協会について	JIA（日本建築家協会）の業務及び役割について講義する。
5	建設業協会について	建設業協会、福島県の木工組合他の業務及び役割について講義する。
6	防災と建築関連団体について	災害時における建築関連団体の役割と責務、及び活躍事例について講義する。
7	地方自治体との関係について	地方自治体と建築関連各種団体との関連について解説する。
8	入札制度について	プロポーザルやコンペティションのプロセスについて講義する。
9	コンペティションについて	コンペティションの事例を紹介し理解を深める。
10	プロポーザルについて	プロポーザルの事例を紹介し理解を深める。
11	福島県の事例について	福島県におけるプロポーザルやコンペティションにおいて建設された建築の事例研究を行う。
12	問題点について	プロポーザルやコンペティションの事例における当落及び問題点等に関する議論する。
13	設計コンセプトと手法	プロポーザルにおける設計コンセプトの把握と立案手法について講義する。
14	表現テクニック	プロポーザルやコンペティションにおける表現テクニックについて研究する。
15	まとめ	レポート発表を行い、本講座について総括する。

平成29年度

<b>科目名</b>	建築計画特論		<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	山形 敏明			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	建築分野における各種団体の業務や役割について学び、広く建築界の仕組みを知る。また、プロポーザルやコンペティションの事例研究を通して、そのプロセスや社会的意義、コンセプトの立案手法、プレゼンテーションテクニックを学ぶ。なお、この科目は一級建築士受験に係る大学院における実務経験の要件となるインターンシップ科目である。			
<b>達成目標</b>	当講義内容を理解し、建築設計事務所等で業務に携わるための実践的手法及び技術者として倫理観を修得していること。			
<b>受講資格</b>	修士1年	<b>成績評価 方法</b>	レポート70%、プレゼンテーション30%の割合で評価する。	
<b>教科書</b>	適宜、資料を配布する。			
<b>参考書</b>	適宜紹介する。			
<b>学生への要望</b>	今日の建築界の仕組みを把握するために、建設関連の新聞記事等に親しむこと。			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日12:50~14:20、14:30~16:00 住居学研究室			
<b>自学自習</b>	事前学習：当日の内容を配付資料をもとに確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえて、紹介された参考書等を用いてノート整理を行うこと（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業ガイダンス	授業のガイダンス、建築分野における諸団体の概要について解説する。
2	建築士の責務	建築士の責務及び、日本建築士会の業務及び役割について講義する。
3	日本建築学会について	建築関連業務に多くの基準を策定している日本建築学会の学術的位置づけについて解説する。
4	日本建築家協会について	JIA（日本建築家協会）の業務及び役割について講義する。
5	建設業協会について	建設業協会、福島県の木工組合他の業務及び役割について講義する。
6	防災と建築関連団体について	災害時における建築関連団体の役割と責務、及び活躍事例について講義する。
7	地方自治体との関係について	地方自治体と建築関連各種団体との関連について解説する。
8	入札制度について	プロポーザルやコンペティションのプロセスについて講義する。
9	コンペティションについて	コンペティションの事例を紹介し理解を深める。
10	プロポーザルについて	プロポーザルの事例を紹介し理解を深める。
11	福島県の事例について	福島県におけるプロポーザルやコンペティションにおいて建設された建築の事例研究を行う。
12	問題点について	プロポーザルやコンペティションの事例における当落及び問題点等に関する議論する。
13	設計コンセプトと手法	プロポーザルにおける設計コンセプトの把握と立案手法について講義する。
14	表現テクニック	プロポーザルやコンペティションにおける表現テクニックについて研究する。
15	まとめ	レポート発表を行い、本講座について総括する。

平成29年度

<b>科目名</b>	建築生産計画特論	<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	堀井 勝典		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	1. 学科3年のときに学んだ施工を、さらに深く掘り下げ、施工のプロセスおよびその実務の関連などを有機的、絶対的に把握してもらうことを目的とする。 2. いずれ建築士を取得するための知識の習得。		
<b>達成目標</b>	1. 学科3年のときに学んだ施工を、さらに深く掘り下げ、施工のプロセスおよびその実務の関連などを有機的、絶対的に把握してもらうことを目的とする。 2. いずれ建築士を取得するための知識の習得。		
<b>受講資格</b>	修士課程1年生	<b>成績評価 方法</b>	授業20%、小テスト30%、小論文50%
<b>教科書</b>	図説建築施工入門、建築施工教科書		
<b>参考書</b>	特に指定しない		
<b>学生への要望</b>	少数なのでとにかく頑張ること。		
<b>オフィスタイム</b>	授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	着工準備	設計、契約、営業活動、各種書類手続き
2	着工準備	建設産業の構造、施工管理、近隣関係
3	着工準備	敷地の確認、現場事務所、着工、測量
4	土工事、基礎工事	地下工事、根切り、近隣対策
5	土工事、基礎工事	杭打工事
6	躯体工事	鉄筋工事（加工図、製作図、検査）
7	躯体工事	現場における建方、鉄筋工事の流れ
8	躯体工事	コンクリート工事（躯体図、加工図、検査）
9	躯体工事	健物の解体
10	躯体工事	建築の工業化
11	仕上工事	躯体工事から仕上工事への移行
12	仕上工事	防水工事（下地、養生）
13	仕上工事	部屋の仕上工事（床、壁、天井）
14	仕上工事	外部の仕上工事（タイル、吹抜）
15	まとめ	最終まとめ

平成29年度

<b>科目名</b>	建築材料特論		<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	藤田 延幸			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	授業の到達目標及びテーマ 建築材料のもつ基本的特性を説明した上で、それが実際の建物でどのように組み合わせて施工されているかを理解してもらう。 将来の建築材料として、どのようなものが考えられるか予想する。 授業の概要 「材料」の理解を容易にするため、各種材料を構造的なものから、仕上の、機能的なもの順に説明し、基本を理解してもらう。次いで応用編、材料の組合せによってどのような効果生まれ、その配慮をすることで醸し出される空間の色々を実例で示す。			
<b>達成目標</b>	授業の到達目標及びテーマ 建築材料のもつ基本的特性を説明した上で、それが実際の建物でどのように組み合わせて施工されているかを理解してもらう。 将来の建築材料として、どのようなものが考えられるか予想する。 授業の概要 「材料」の理解を容易にするため、各種材料を構造的なものから、仕上の、機能的なもの順に説明し、基本を理解してもらう。次いで応用編、材料の組合せによってどのような効果生まれ、その配慮をすることで醸し出される空間の色々を実例で示す。			
<b>受講資格</b>	人間生活学研究科人間生活学専攻 1年生	<b>成績評価 方法</b>	定期試験により評価します。	
<b>教科書</b>	「建築材料（第四版）」編著：橋高義典、杉山央 市ヶ谷出版社 「建築材料教科書（第六版）」編著：建築材料教科書研究会 彰国社			
<b>参考書</b>	参考資料があれば配付します。			
<b>学生への要望</b>	積極的に授業に参加すること。			
<b>オフィスタイム</b>	授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業の概要説明	授業の概要説明
2	[構造用材料] 1. 木材	[構造用材料] 1. 木材
3	[構造用材料] 2. 構造用金属材料	[構造用材料] 2. 構造用金属材料
4	[構造用材料] 3. コンクリート	[構造用材料] 3. コンクリート
5	[内外装材料] 4. 非金属材料	[内外装材料] 4. 非金属材料
6	[内外装材料] 5. 石材	[内外装材料] 5. 石材
7	[内外装材料] 6. ガラ	[内外装材料] 6. ガラス
8	[内外装材料] 7. セラミック	[内外装材料] 7. セラミック
9	[内外装材料] 8. プラスチック	[内外装材料] 8. プラスチック
10	[内外装材料] 9. 左官材料	[内外装材料] 9. 左官材料
11	[内外装材料] 10. 塗装	[内外装材料] 10. 塗装
12	[内外装材料] 11. 外壁パネル	[内外装材料] 11. 外壁パネル
13	[機能材料] 12. 防水材料、防耐火材料、断熱材料	[機能材料] 12. 防水材料、防耐火材料、断熱材料
14	[機能材料] 13. 音響材料、免震・制振材料	[機能材料] 13. 音響材料、免震・制振材料
15	各種建築材料の組み合わせの効果・実例紹介	各種建築材料の組み合わせの効果・実例紹介

平成29年度

<b>科目名</b>	実務実習Ⅰ（インターンシップ）	<b>対象 単位数 必選</b>	大学院 人間生活学研究科修士課程専攻 1年 6単位 選択
<b>担当教員</b>	山形 敏明		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	建築設計事務所等において建築設計及び工事監理を体験しつつ一連の業務内容を理解し、これらの実務を建築士の指導下において実習することで、大学及び大学院で学修した建築技術を実践的なものにし、技術者としての職業倫理を身につけることを目的とする。なお、この科目は一級建築士受験に係る大学院における実務経験の要件となるインターンシップ科目である。		
<b>達成目標</b>	建築設計及び工事管理について、一連の業務内容を理解していること。建築士の指導下で、大学及び大学院で学修した建築技術を実践的なものにし、技術者としての職業倫理を身につけていること。		
<b>受講資格</b>	人間生活学専攻修士課程	<b>成績評価 方法</b>	成績は、指定された実習報告書（実習内容とその成果や考察を記したもの）及び実習成果の報告会における発表内容と質疑応答によって総合的に評価する。なお、成績評価の配分は応用力40%、発想力・活用力60%とする。
<b>教科書</b>	必要な資料は適宜配布する。		
<b>参考書</b>	必要な書籍や指針などは適宜紹介する。		
<b>学生への要望</b>	学生が建築士事務所に出向き、一級建築士の指導下において設計や工事監理に関わる業務の補助を行う。実習期間中に実習日報を適宜提出し、実習終了後に実習報告書を提出して実習成果の報告会をおこなうこと		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日12:50～14:20、14:30～16:00 住居学研究室		
<b>自学自習</b>	予習 実習日報の内容確認(1時間) 復習 指導後、実習報告書の訂正(1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業計画	<p>実習先にて一級建築士の指導下で建築設計と工事監理に関する実務訓練を行いつつ、その実務に必要な学習を行う。</p> <p>学修時間は実習先の事務所における勤務時間内にて、計240時間の実習を行い、実習報告書の作成と発表を含めて270時間とする。実習内容の時間配分は概ね次の通りとする。実習の時期は、1年次の夏季及び春季休業の期間に行うことを原則とするが、実習先の業務の都合等により変更できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画図面の作成実習（模型作成等を含む）：70～90時間</li> <li>・実習図面の作成実習（図面修正等を含む）：120～140時間</li> <li>・施工現場の工事監理実習：20～40時間 計230時間</li> <li>・実習報告書の作成と報告会：別途学内にて実施 総計240時間</li> </ul>